HP Release Control

Windows® オペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン：9.20

デプロイメントガイド

ドキュメントリリース日：2012年7月
ソフトウェアリリース日：2012年7月

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2006 -2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Oracle®は、Oracle Corporation（Redwood City, California）の米国登録商標です。

Microsoft®、Windows®、およびWindows® XPは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国の登録商標です。

Java™は、Oracleおよびその関連会社の登録商標です。

Adobe®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation（http://www.apache.org/（英語サイト））によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Indiana University Extreme!Lab （http://www.extreme.indiana.edu/（英語サイト））によって開発されたソフトウェアが含まれています。

ドキュメントの更新情報

このドキュメントのタイトルページに、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

または、HP Passportのログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHPソフトウェアのサポートWebサイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

このガイドにようこそ 7
このガイドの内容 8
このガイドの対象者 8
HP Release Controlのドキュメント 8
その他のオンラインリソース 9

第 1 章: HP Release Controlのインストールとデプロイ 11
デプロイメントプロセス：基本的な手順 12
インストールの前に 13
HP Release Controlのインストール 19
データベースまたはユーザースキーマの設定 21
HP Release Controlの起動 26
HP Release Controlサーバーの構成 28
HP Universal CMDBの構成 29
旧バージョンのHP Universal CMDBとHP Release Controlの連携 31
サービスデスク統合の構成 34
Webサーバーの構成 68
サーバーリバースプロキシ経由でのHP Release Controlへのアクセス 71
HP Release Controlの構成設定 73
HP Release Controlのアンインストール 74

第 2 章: HP Release Controlのアップグレード 77

第 3 章: FAQ 87
スタンドアローンモード用のcmdb-mock.jsスクリプトの構成方法 87
2つの変更アダプターを使用して変更チケットをプルする方法と、
異なる手段でリスク値を計算する方法 92
SSLを使用する場合のHP Release ControlとService Managerの統合の
セットアップ方法 94
HP Release ControlのユーザーをLDAPグループマッピングなしで
セットアップする方法 96

索引 101

このガイドにようこそ

この『*HP Release Control デプロイメントガイド*』では、HP Release Control ソフトウェアのインストールおよびデプロイ方法と、最新バージョンにアップグレードする方法について説明します。HP Release Control は、リリース ライフ サイクルにおいて、変更諮問委員会 (CAB) のメンバーと実施チームの意思決定を支援する共通のプラットフォームを提供します。実施時には、システムの各変更要求を分析し、リアルタイムの情報の提供やアラート通知を行います。また、リリースライフサイクル全般を通じて、コラボレーション、フィードバック、レビューが可能になります。

本章の内容

- 「このガイドの内容」（8 ページ）
- 「このガイドの対象者」（8 ページ）
- 「HP Release Control のドキュメント」（8 ページ）
- 「その他のオンラインリソース」（9 ページ）

このガイドの内容

このガイドでは、以下の項目について説明します。

第 1 章　HP Release Controlのインストールとデプロイ

HP Release Controlをインストールおよびデプロイする方法

第 2 章　HP Release Controlのアップグレード

HP Release Controlの最新バージョンにアップグレードする方法

このガイドの対象者

このガイドは、HP Release Controlのインストール、デプロイ、アップグレードを担当するHPサービスエンジニアを対象としています。

HP Release Controlのドキュメント

HP Release Controlには、以下のドキュメントが付属しています。

『**HP Release Control デプロイメントガイド**』では、HP Release Controlのインストールおよびデプロイ方法について説明しています。このガイドは、以下のフォーマットで、以下の場所に保存されています。

- PDFフォーマット。HP Release Control DVDの中。
- PDFフォーマット。HP Release Controlアプリケーションの [**ヘルプ**] > [**マニュアル ライブラリ**] を選択。

『**HP Release Control ユーザーガイド**』では、HP Release Controlアプリケーションの使用および構成方法について説明しています。このガイドは、以下のフォーマットで、以下の場所に保存されています。

- PDFフォーマット。HP Release Control DVDの中。
- PDFフォーマットおよびオンラインHTMLヘルプフォーマット。HP Release Controlアプリケーションの [**ヘルプ**] > [**マニュアル ライブラリ**] を選択。

- HTMLヘルプフォーマット。HP Release Controlアプリケーションの個別のウィンドウから、ウィンドウ内をクリックしてF1を押すか、メニューから**ヘルプ**を選択。

『**HP Release Control API Reference**』では、HP Release ControlのAPIの使用方法について説明しています。『API Reference』は、HP Release Control DVDからCHMフォーマットで、または [**ヘルプ**] > [**マニュアル ライブラリ**] を選択してHP Release Controlアプリケーションから参照できます。

HP Release Control の『**はじめにお読みください**』には、製品の現行バージョンの最新情報と、既知の問題、制限について包括的な情報が記載されています。『はじめにお読みください』は、HP Release Control DVDから HTMLフォーマット で、または [**ヘルプ**] > [**マニュアル ライブラリ**] を選択してHP Release Controlアプリケーションから参照できます。

注意：PDFフォーマットのドキュメントの表示と印刷には、Adobe Readerを使用します。Adobe ReaderはAdobeのWebサイト (**http://www.adobe.com**) からダウンロード できます。

その他のオンラインリソース

[**HP ソフトウェア サポート**] から、HPソフトウェアサポートのWebサイトにアクセスできます。このサイトで、セルフソルブナレッジベースを参照できます。また、ユーザーディスカッションフォーラムへの投稿と検索、サポートリクエストの送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなども行えます。[**ヘルプ**] > [**HP ソフトウェア サポート**] を選択してください。このWebサイトのURLは、http://support.openview.hp.com です。

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html （英語サイト）

[**HP ソフトウェア Web サイト**] から、HPソフトウェアのWebサイトにアクセスできます。このサイトで、HPソフトウェア製品の最新情報を入手できます。新しいソフトウェアリソース、セミナー、展示会、カスタマーサポートなどの情報が掲載されています。[**ヘルプ**] > [**HP ソフトウェア Web サイト**] を選択してください。このWebサイトのURLは、http://support.openview.hp.com/です。

HPソフトウェアでは、新しい情報で製品ドキュメントを絶えず更新しています。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、HPソフトウェア製品マニュアルWebサイト (http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals) をご利用ください。

第 1 章

HP Release Controlのインストールとデプロイ

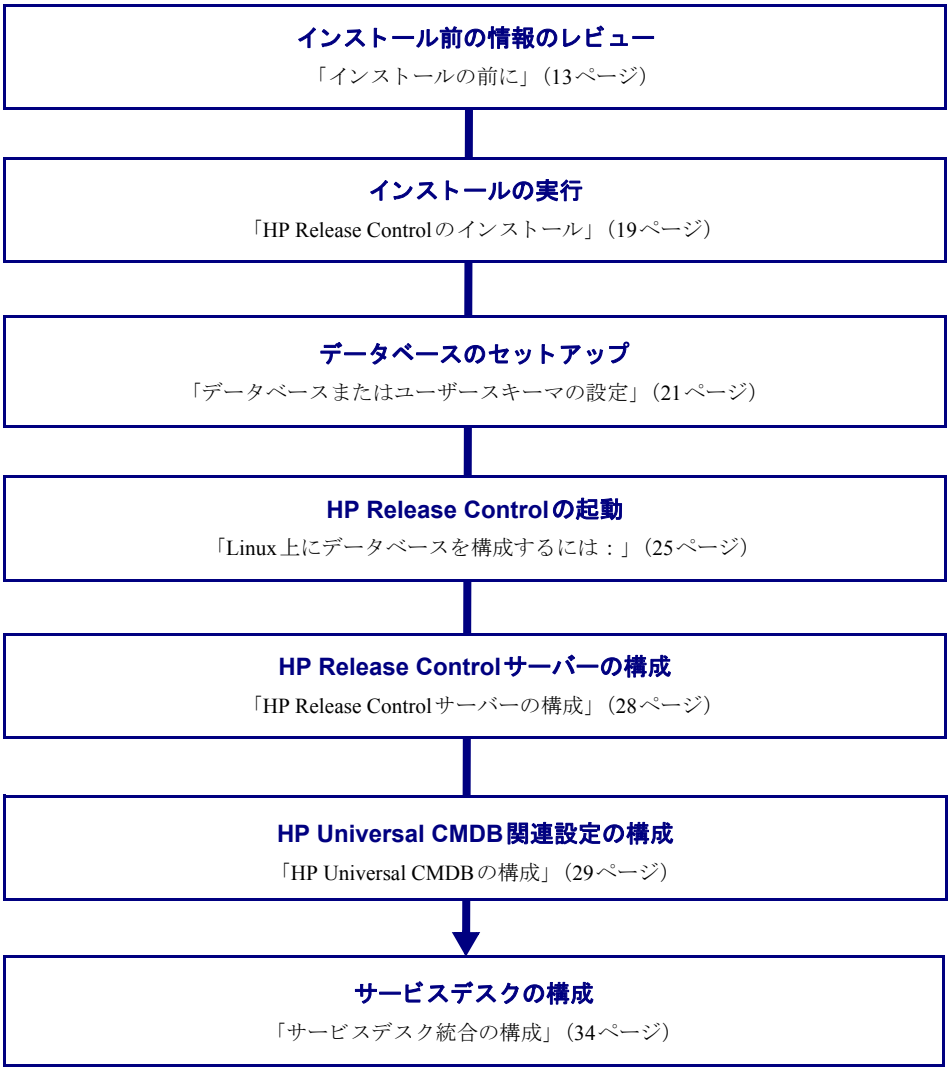
本章では、HP Release Controlのインストールおよびデプロイする方法について説明します。

本章の内容

- 「デプロイメントプロセス：基本的な手順」（12 ページ）
- 「インストールの前に」（13 ページ）
- 「HP Release Controlのインストール」（19 ページ）
- 「データベースまたはユーザースキーマの設定」（21 ページ）
- 「HP Release Controlの起動」（26 ページ）
- 「HP Release Controlサーバーの構成」（28 ページ）
- 「HP Universal CMDBの構成」（29 ページ）
- 「サービスデスク統合の構成」（34 ページ）
- 「Webサーバーの構成」（68 ページ）
- 「サーバーリバースプロキシ経由でのHP Release Controlへのアクセス」（71 ページ）
- 「HP Release Controlの構成設定」（73 ページ）
- 「HP Release Controlのアンインストール」（74 ページ）

デプロイメントプロセス：基本的な手順

次の図は、HP Release Control環境を稼働状態にするための基本的な手順を示しています。



インストールの前に

HP Release Control をインストールする前に、この項に記載されているシステム要件などの情報を確認してください。本項の内容：

- 「サポート対象サービスデスク」（13ページ）
- 「サーバーシステム要件」（16ページ）
- 「クライアント要件」（17ページ）
- 「HP Release Controlデプロイメントの詳細オプション：」（17ページ）
- 「HP Release Controlデータフロー」（18ページ）
- 「システムアーキテクチャ」（19ページ）

サポート対象サービスデスク

サービスデスク統合モジュールは、次のサービスデスクアプリケーションをサポートします。

アプリケーション	バージョン
HP Project and Portfolio Management	➤ 7.1 SP6 ➤ 7.5 SP2 ➤ 8.x ➤ 9.x
HP Service Manager/Center	➤ 6.2.x ➤ 7.1x ➤ 9.20 ➤ 9.30
HP Server Automation	➤ 7.5 ➤ 7.8 ➤ 9.0
BMC Remedy Action Request System	➤ 7.0
Aperture Vista Data Center Infrastructure Manager (DCIM)	6.0

各サービスデスクで使用可能な機能

HP Release Control の機能の一部は、特定のサービスデスクアプリケーションとの統合が必要になります。次の表では、使用可能な機能をサービスデスクごとに示しています。この表に記載されていないサービスデスクには、該当の機能は搭載されていません。

注意：SM = HP Service Manager、**SC** = HP ServiceCenter、**PPM** = HP Project and Portfolio Management / Mercury IT Governance Center

---

機能	SM	SC	PPM
承認ステータスの更新。分析モジュールの [**コラボレーション**] > [**決議**] タブで変更要求を承認すると、サービスデスク内で変更要求のステータスが更新されます。	○	○	○
承認の撤回。分析モジュールの [**コラボレーション**] > [**決議**] タブで変更要求の承認を撤回すると、サービスデスク内で変更要求のステータスが更新されます。	○	○	×
計画日時の更新。分析モジュールの変更プランナーでシミュレーションを実行した後、更新された開始日時および終了日時を元のサービスデスクに保存します。	○	○	×
実際の日時の更新。ディレクターモジュールと実施担当者モジュールでは、作業の実際の開始時刻と終了時刻を更新できます。これらの日時は、元になったサービスデスクチケットで自動的に更新されます。	○	○	×
実施後レビューの更新。[**レビュー**] > [**結論**] タブの [実施後レビュー] ダイアログボックスのデータを変更すると、元のサービスデスクのデータが更新されます。	○	○	×
HP Release Control からのチケットをクローズ。分析モジュールの [**レビュー**] > [**結論**] タブで、サービスデスクチケットをクローズします。	○	○	×

機能	SM	SC	PPM
分析情報の更新。変更要求の発生元となるサービスデスクは、HP Release Controlの分析情報 (リスクレベルとインパクト分析など) で更新されます。	○ (構成が必要)	×	×
選択した変更要求。分析モジュールの [**コラボレーション**] > [**決議**] タブで変更要求を承認すると、サービスデスク内で変更要求のステータスが更新されます。	○	×	×

サーバーシステム要件

次の表は、HP Release Controlサーバーのシステム要件を示しています。

CPU	Intel Pentium 4
メモリー (RAM)	Minimum of 2 GB
空きディスクスペース	Minimum of 5 GB
マシン	➤ VMware ➤ 実マシン
オペレーティングシステム	➤ Windows Server 2008 (32-bit) ➤ Windows Server 2008 (64-bit) ➤ Windows Server 2008 R2 (64-bit) ➤ Oracle Enterprise Linux 6.x (64-bit) ➤ Red Hat Enterprise Linux 6.x (64-bit)
データベース	➤ Microsoft SQL Server 2008 SP2 ➤ Microsoft SQL Server 2008 R2 ➤ Oracle 10.1.x、10.2.x、11.1.x、11.2.x (11g R1/11g R2)
HP Universal CMDB	➤ HP Universal CMDBバージョン8.0x、9.0x、10.0x (CMDB通常インストール) 各バージョンの詳細なシステム要件については、HP Universal CMDBのドキュメントを参照してください。

クライアント要件

次の表は、クライアントでHP Release Controlを表示する上で必要となる要件を示しています。

ブラウザー	➤ Microsoft Internet Explorer 8.0、9.0。 **注：**Internet Explorerでは、ページを閲覧するたびに、保存されたページの新しいバージョンがないか確認する設定をお勧めします。たとえばバージョン6.0の場合は、[**ツール**] > [**インターネット オプション**] > [**全般**] タブを選択します。[**インターネット一時ファイル**] にある [**設定**] をクリックし、[**ページを表示するごとに確認する**] オプションを選択します。 ➤ Mozilla Firefox 3.x、4.x、5.x、6.x以降
Flash Playerブラウザープラグイン	Flash Player 9以降
画面の解像度	➤ 1024x768以上 ➤ 1280x1024を推奨
画面の色	16ビット以上 **注：**リモート接続経由でHP Release Controlサーバーにログインする場合は、リモートデスクトップの画面の色が16ビット以上に設定されていることを確認してください。

HP Release Controlデプロイメントの詳細オプション：

HP Release Controlでは、通常のデプロイメントの他に、次のオプションも使用できます。

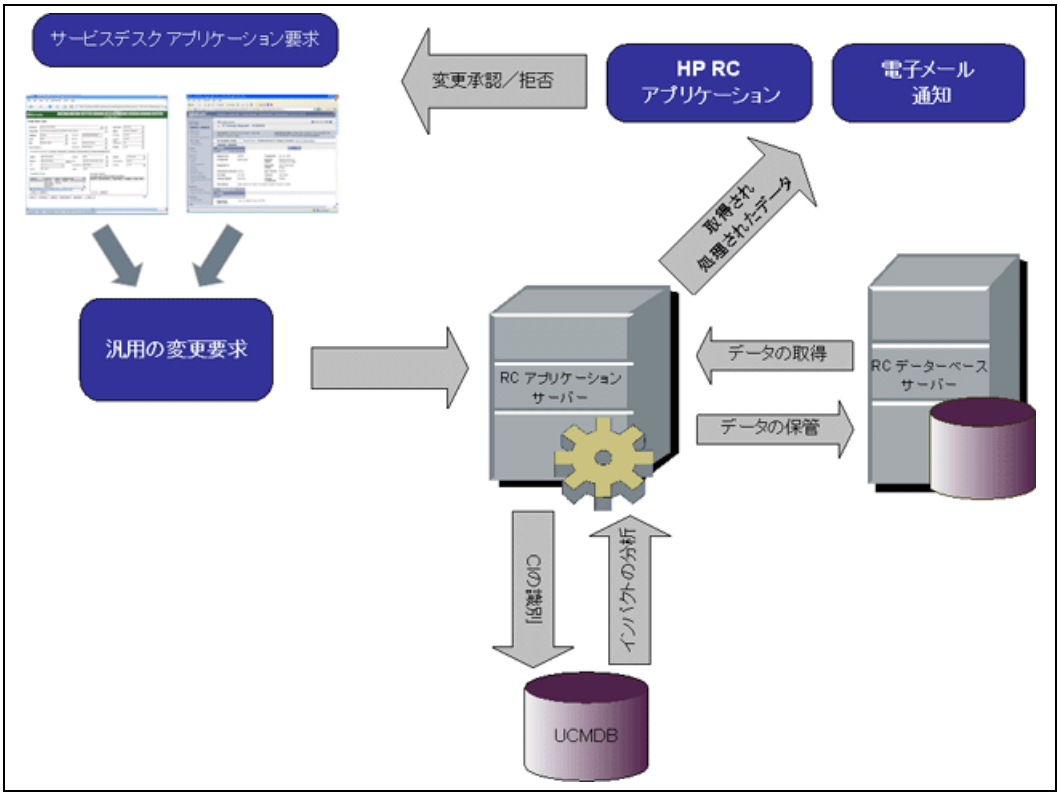
➤ **クラスターの導入。**HP Release Controlは、複数のノードに導入できます。詳細については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のクラスター設定に関する項を参照してください。

➤ **Webサーバー。**HP Release Controlでは、Webサーバー (Microsoft Internet Information Services (IIS) 6.x、7.0、7.5またはApache HTTP Server 2.2.x) との連携が可能です。詳細については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』に記載のWebサーバー設定に関する項を参照してください。

➤ **ID管理。**HP Release Controlでは、サードパーティが提供するID管理ソリューション (CA SiteMinder など) との連携が可能です。詳細については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のID管理に関する項を参照してください。

HP Release Controlデータフロー

以下の図は、HP Release Control実行時のデータフローを示しています。



➤ 変更要求はサービスデスクアプリケーションで作成されてから、汎用要求に変換されます。

➤ HP Release Controlはその要求を分析して、構成アイテム (CI) 間の関係を決定するためにHP Universal CMDBに要求を送信します。

- HP Release ControlはHP Universal CMDBからデータを取得し、インパクトの分析を実行します。
- HP Release Controlは、リスクや衝突の分析などの計算を実行することで、変更要求をさらに分析します。
- 情報はHP Release Control Database Serverに格納されます。
- 電子メール通知が構成の設定に従って意思決定者に送信され、変更が承認または拒否されます。

システムアーキテクチャ

HP Release Controlは、次の3つの層で構成されるアプリケーションです。

- Flashベースの (ファット) クライアント、Webブラウザーでアクセス
- アプリケーションサーバー
- データベースサーバー

データベースサーバーおよびHP Release Controlアプリケーションサーバーは、データベースサーバーに接続されている、帯域幅が広く遅延の小さいネットワークパスに配置する必要があります。

HP Release Controlのインストール

HP Release Controlは、HP Release Control用のInstallShieldウィザードを使用してWindowsにインストールできます。または、一連のシェルコマンドを実行してHP Release ControlをLinuxにインストールできます。

WindowsにHP Release Controlをインストールするには：

1. HP Release Controlインストールディスクの**Setup**フォルダーにある**setup.exe**ファイルをクリックします。HP Release ControlのInstallShieldウィザードが起動します。[**次へ**] をクリックします。
2. ソフトウェア使用許諾書が表示されるので、同意します。[**次へ**] をクリックします。
3. デフォルトのインストールディレクトリをそのまま使用するか、[**参照**] をクリックして別のディレクトリを選択します。

注意：ディレクトリ名には、空白文字は使用できません。

[**次へ**] をクリックします。

4 サマリ画面の内容が正しいことを確認します。

設定を確認または変更するには、[**戻る**] をクリックします。設定を確認してから [**次へ**] をクリックするとHP Release Controlのインストールが始まります。

5 インストールプロセスが完了したら、InstallShieldウィザード画面で [**終了**] をクリックします。

注意：アップグレード 手順を続行する場合は、「ステージ2：HP Release Controlのインストールとアップグレード」の手順2に進んでください (80ページを参照してください)。

LinuxにHP Release Controlをインストールするには：

1 **release-control-9.20.0000.x86_64.rpm.bin**をターゲットコンピューターにコピーします。ファイルは、HP Release Controlインストールの DVDの **Setup**フォルダーにあります。

2 Linuxシステムに**root**としてログインします。

3 シェル端末を開き、現在の作業ディレクトリを**bin**ファイルがある場所に変更します。

4 次のコマンドを実行して、実行権限を設定します。

```
chmod u+x release-control-9.20.0000.x86_64.rpm.bin
```

エンドユーザー・ライセンス契約が表示され、その条件に同意するよう求められます。

5 次のコマンドを実行して、HP Release Controlのインストールを開始します。

```
./release-control-9.20.0000.x86_64.rpm.bin
```

デフォルトのインストールディレクトリは **/opt/HP/rc** で、新規ユーザー **release-control** (**HP** グループに所属) が作成されます。

release-control の新しいシステムサービスが登録されます。これは、次のコマンドを実行して確認できます。

```
chkconfig --list|grep release-control
```

このサービスは、システムの再起動時に自動的に開始されます。

データベースまたはユーザースキーマの設定

注意： Oracle Serverユーザースキーマを手動で作成する場合、アップグレードはサポートされません。

HP Release Controlを使用するには、Microsoft SQL ServerデータベースまたはOracle Serverユーザースキーマのいずれかを作成する必要があります。作成後、HP Release Controlデータベースまたはユーザースキーマの接続プロパティを、データベース構成ウィザードで設定します。

注： MS SQL ServerとOracle Serverでのシステム要件は、「サーバーシステム要件」(16ページ）を参照してください。

MS SQLとOracle Serverデータベースの構成とメンテナンスに関する情報とガイドラインは、『*HP Release Control ユーザーガイド*』を参照してください。

Windows上にデータベースを構成するには：

1 Microsoft SQL Serverデータベースまたは Oracle Serverユーザースキーマのいずれかを作成します。

➤ **MS SQL Server 2005**：スナップショット分離を有効にします。

データベースの作成後、次のコマンドを1回実行します：

```
alter database <ccm_database_name> set read_committed_snapshot on
```

SQL Serverのスナップショット分離機能の詳細は、http://msdn.microsoft.com/en-us/library/tcbchxcb(VS.80).aspxを参照してください。

➤ **Oracle**：Oracle ユーザーに、**Connect** 役割と **Resource** 役割のみを割り当てます(Oracleユーザーに**Select any table**権限があると、操作は失敗します)。

2 以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	DBホスト名とポート
	DBユーザー名とパスワード
	MS SQL：データベース名
	Oracle：SID

3 データベース構成ウィザードを実行する前に、以下の内容を確認してください。

➤ **詳細構成オプション**。ウィザードで詳細構成オプションを選択すると、プールの最小サイズと最大サイズなど、詳細なデータベースプロパティを指定できます。オプションの詳細については、http://www.mchange.com/projects/c3p0/index.html#configuration_propertiesを参照してください。

➤ **MS SQL URL。**ウィザードで詳細構成オプションを選択すると、**database.properties**ファイルで、JTDS MSSQLの接続URLを指定する必要があります。認証には、次の2つのタイプがあります。

➤ **SQL認証。**有効なMS SQLサーバー名とデータベース名を指定します。

例：

```
jdbc:jtds:sqlserver://myServer:1433/
myDataBase;sendStringParametersAsUnicode=false
```

➤ **Windows (NTLM) 認証。**Windows認証を適用するには、database.propertiesファイルでJTDS接続URLにドメインプロパティを追加します。認証対象となるWindowsドメインを指定します。

例：

```
jdbc:jtds:sqlserver://myServer:1433/
myDatabase;sendStringParametersAsUnicode=false;domain=myDomain
```

Windows (NTLM) 認証は、Lightweight Single Sign-On Authentication Support (LW-SSO) を使用する設定としない設定のいずれでも使用できます。

Windows (NTLM) 認証でLW-SSOを使用しない場合。ドメインプロパティが存在し、ユーザー名とパスワードが提供されている場合、JTDSは、通常のSQL Server認証ではなくWindows (NTLM) 認証を使用します。つまり、提供されているユーザーとパスワードは、ドメインのユーザーとパスワードです。これにより、Windows以外のクライアントでも、Windows認証しか受け付けないサーバーにログインすることが可能になります。

Windows (NTLM) 認証でLW-SSOを使用する場合。ドメイン パラメーターは存在するが、ユーザー名とパスワードが提供されていない場合、ユーザー名とパスワードの各パラメーターの値には空の文字列が使用されます。JTDS は専用のSingle-Sign-On ライブラリを使用し、Windows ユーザーの資格情報を使ってログインします。この認証を成功させるためには、Windowsを使用してドメインにログインし、LW-SSOライブラリをインストールしておく必要があります。

LW-SSOライブラリのインストールに関する詳細は、**readme.sso**ファイルを参照してください。このファイルは、http://jtds.sourceforge.netの最新のディストリビューションパッケージからダウンロードできます。

注： MS SQL Server用のjTDS URL形式の設定については、http://jtds.sourceforge.net/faq.html#urlFormatを参照してください。

➤ **Oracle URL。** ウィザードで詳細構成オプションを選択する場合、Oracleネイティブドライバーの接続URLを指定する必要があります。有効なOracleサーバー名とSIDを指定します。または、**Oracle RAC**を使用している場合には、Oracle RAC構成情報を指定してください。

注： ネイティブのOracle JDBC URLの形式については、http://www.orafaq.com/wiki/JDBC#Thin_driverを参照してください。Oracle RACのURLの設定については、http://download.oracle.com/docs/cd/B28359_01/java.111/e10788/rac.htm を参照してください。

➤ **パスワードの暗号化。** ウィザードの構成ページでは、[**パスワードを暗号化する**] オプションを選択して、データベースプロパティファイルのパスワードを暗号化することをお勧めします。

4 [**スタート**] > [**プログラム**] > [**HP Release Control 9.20**] > [**データベース構成ウィザード**] を選択して、データベース構成ウィザードを実行します。

注意：アップグレード 手順を続行する場合は、「ステージ2：HP Release Controlのインストールとアップグレード」の手順4に進んでください (80ページを参照してください)。

---

5 データベース構成の最後に、データベースを読み込みます。

コマンド行ディレクトリを **<HP Release Control インストールディレクトリ >\bin** に変更し、次のコマンドを実行します。

```
Populate.bat i
```

Linux上にデータベースを構成するには：

1 コマンド行ディレクトリを **/opt/HP/rc/management/server/bin** に変更し、次のコマンドを実行します。

```
./dbconfig.sh
```

GUIウィザードに従って、データベース接続を構成します。

./dbconfig.sh コマンドを使用してデータベース構成ウィザードを起動できるのは、GUIベースのLinuxのみです。GUIベースのLinux環境がない場合は、以下の手順を実行して、手動でデータベースプロパティを構成する必要があります。

a **<HP Release Control インストールディレクトリ >/conf** に移動し、**database.properties** を削除します。

b **<HP Release Control インストールディレクトリ >/examples/database-config-examples** に移動します。データベースタイプに応じて、**database.properties.mssql**、**database.properties.oracle9i** または **database.properties.oracle10g** を **<HP Release Control インストールディレクトリ >/conf** にコピーします。そのファイルの名前を **database.properties** に変更します。

c テキストエディターで **database.properties** を開きます。[] 内の文字列を正しい値に変更し、変更を保存します。

2 データベース構成の最後に、データベースを読み込みます。

a 次のコマンドを実行して、ユーザー名 **release-control** でHP Release Controlにログインします。

```
su - release-control
```

b コマンド行ディレクトリを **/opt/HP/rc/bin** に変更し、次のコマンドを実行します。

```
./Populate.sh i
```

HP Release Controlの起動

ここでは、HP Release Controlを起動する方法について説明します。

WindowsでHP Release Controlを起動するには：

1 Apache Webサーバーを使用している場合は、Webサーバーを再起動してください。

2 HP Release Controlサービスを開始します。

a Windowsメニューで［**スタート**］＞［**ファイル名を指定して実行**］の順に選択し、「**services.msc**」と入力します。

b ［サービス］ウィンドウで、［**HP ReleaseControl 9.20 <サーバー名>**］を選択し、［**サービスの開始**］をクリックします。

注： サービスの開始までに数分かかる場合があります。

---

3 HP Release Controlへのアクセスに使用するURLを入力します (使用するユーザー認証モードごとに異なります)。例：

```
http://server:8080/ccm
```

4 ユーザー名**admin**、パスワード**admin**でHP Release Controlにログインします。ログインが完了したら、必ずパスワードを変更してください。パスワードの変更とHP Release Controlユーザーの作成の詳細は、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のユーザー構成の項を参照してください。

注意：HP Release ControlのID管理ソリューションまたはLDAP認証を使用している場合、HP Release Controlに管理者とユーザーを追加する方法について、『*HP Release Control ユーザーガイド*』を参照してください。

LinuxでHP Release Controlを起動するには：

1 Linuxシステムに**release-control**としてログインします。

2 次のどちらかのコマンドを実行して、Release Controlデーモンを開始します。

```
/etc/init.d/release-control
```

```
/opt/HP/rc/start.sh
```

3 ファイアウォールの設定で、**入力**用にポート8080が開かれていることを確認します。

HP Release Controlサーバーの構成

ここでは、HP Release Controlサーバーを構成する方法について説明します。

1 HP Release Controlにログインします (「HP Release Controlの起動」（26ページ）を参照してください)。

注意： HP Release Control では、デフォルトでサポートされているのはHP Universal CMDB 9.x との統合のみです。HP Universal CMDB の旧バージョンを使用する場合、vanilla_for_ucmdb80.zipファイルをインポートしてからHP Release Controlを構成する必要があります。

---

2 [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] > [**サーバー**] を選択し、[サーバー] ウィンドウで次の設定を行います。

UIの要素	説明
サーバー名	サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。 **注：** ➤ デフォルト値である **localhost** や IP アドレスは使用しないでください。 ➤ 負荷分散装置の背後で複数のHP Release Controlサーバーでクラスター構成を行っている場合は、負荷分散装置のドメイン名を指定してください。
サーバーアドレス	HP Release Controlサーバーアドレスを次の方法で指定してください。 ➤ HP Release Controlサーバーを1台インストールしている場合、このコンピューターのURLを指定します。 **注：**Webサーバーを使用している場合は、Webサーバーのポートを使用してください。 ➤ 負荷分散装置の背後で複数のHP Release Controlサーバーでクラスター構成を行っている場合は、負荷分散装置のURLを指定してください。
SMTPホスト	SMTPメールサーバーコンピューターのホスト名を入力します。

UIの要素	説明
SMTPポート	SMTP メールサーバーへの接続に使用するポートを指定します。
SMTPユーザー名	SMTP メール サーバーに接続するために必要なユーザー名を指定します (必要に応じて)。
SMTPパスワード	SMTP メールサーバーへの接続に必要なパスワードを入力します。パスワードの暗号化が必要な場合は、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のパスワード暗号化に関する項を参照してください。

3 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

4 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74ページ) を参照してください)。

5 HP Release Controlサービスを停止します。

   a Windows メニューで [**スタート**] > [**ファイル名を指定して実行**] の順に選択し、「**services.msc**」と入力します。

   b [サービス] ウィンドウで、[**HP ReleaseControl 9.20 <サーバー名>**] を選択し、[**サービスの停止**] をクリックします。

6 HP Release Controlサービスを再度起動します。

HP Universal CMDBの構成

ここでは、HP Release ControlとHP Universal CMDBの連携に必要な構成の設定について説明します。

オプションのHP Universal CMDB構成設定については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』に記載されているHP Universal CMDBの構成に関する項を参照してください。

注意：HP Universal CMDB を使用しない場合 (スタンドアローンモード)、『*HP Release Control ユーザーガイド*』に記載されている HP Release Control のスタンドアローンモード構成に関する項を参照してください。

HP Universal CMDB を構成するには：

1. **rc_package.zip** ファイルを HP Universal CMDB でデプロイします。

   rc_package.zip ファイルは、**<HP Release Control インストールディレクトリ> \uCmdb\ucmdb-<バージョン>\extensions** フォルダーに格納されています。パッケージの導入の詳細は、HP Universal CMDB のドキュメントを参照してください。

注意：HP Universal CMDB 7.x および 8.x の場合、パッケージ名は **ccm_package.zip** です。HP Universal CMDB 9.x の場合、パッケージ名は **rc_package.zip** です。

---

2. HP Release Control にログインします (「Linux 上にデータベースを構成するには：」（25 ページ）を参照してください)。
3. HP Universal CMDB のバージョン番号を選択します。
   - **a** HP Release Control で、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] >[HP Universal CMDB] をクリックします。
   - **b** 右ウィンドウの HP Universal CMDB バージョンボックスで、バージョンを選択します。
4. HP Universal CMDB サーバーの詳細情報を入力します。
   - **a** [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**利用できる接続**] > [**Enter a valid CMDB server name**] を選択します。
   - **b** 右ウィンドウで、[**HP Universal CMDB サーバー名**] ボックスに HP Universal CMDB がインストールされているサーバーの DNS 名を入力します。
   - **c** [**ポート**] ボックスで、HP Universal CMDB サーバーが使用するポートを指定します。

d HP Universal CMDBバージョン8.0.xを使用している場合は、HP Universal CMDBへのアクセスで必要になるユーザー名とパスワードを指定します。

5 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ)を参照してください)。

6 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74ページ)を参照してください)。

旧バージョンのHP Universal CMDBとHP Release Controlの連携

HP Release Control 9.20では、デフォルトでサポートされているのはHP Universal CMDB 9.xとの統合のみです。ここでは、HP Universal CMDBの旧バージョンと連携する方法について説明します。

1 HP Release Controlの[**モジュール**]>[**管理者**]>[**構成**]タブを選択します。

2 [**構成セットのインポート**]ボタンをクリックしてから、**<HP Release Controlインストールディレクトリ>\examples\configuration**フォルダーにある**vanilla_for_ucmdb80.zip**ファイルをインポートします。

3 [**統合**]>[**HP Universal CMDB**]を選択し、**HP Universal CMDBバージョンボックス**で目的のHP Universal CMDBバージョンを選択します。

4 [**統合**]>[**HP Universal CMDB**]>[**利用できる接続**]ウィンドウで、[**Modeling Studioリンク**]のURLを次のように更新します。

HP Universal CMDB 8.x	HP Universal CMDB 9.x
${protocol}://${cmdb-server}:${port}/ucmdb/cms/directAppletLogin.do?ApplicationMode=UCMDB_EDITOR&cmd=OpenModelingStudio&model_id=${model-id}&objectId=${ci-id}&navigation=true&interfaceVersion=8.0.0&customerId=${customer-id}	${protocol}://${cmdb-server}:${port}/ucmdb-ui/cms/directAppletLogin.do?ApplicationMode=UCMDB_EDITOR&cmd=OpenModelingStudio&model_id=${model-id}&objectId=${ci-id}&navigation=true&interfaceVersion=8.0.0&customerId=${customer-id}

5 構成セットのドラフトを保存します (「ドラフトの構成セットの保存」（73ページ）を参照してください)。

6 「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）の説明に従って、構成セットをアクティブにします。

7 HP Release Controlからログアウトしてから、ログインします。

8 [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**CI分析ルックアップ命令**] ウィンドウで、CIタイプを含むテーブルを更新します。

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	HP Universal CMDB 9.xのCIタイプ
business	business_elements
host	node
ip	IP address

9 [**CI分析ルックアップ命令**] ウィンドウで、各CITの属性を変更してテーブルを更新します。

a HP Universal CMDB 8.x：

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	属性
business	data_name
host	host_smnpsysname; data_name; host_dnsname
ip	data_name; ip_dnsname

b HP Universal CMDB 9.x：

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	属性
business_elements	name
node	smnp_sys_name; name; primery_dns_name
IP address	name; authoritative_dns_name

10 [**CI表示**] ウィンドウで、次のCIタイプを含むテーブルを更新します。

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	HP Universal CMDB 9.xのCIタイプ
host	node
ip	ip_address

11 [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**潜在変更**] > [**CIタイプに一致する変更タイプ**] > [**追加されたハードウェア**] ウィンドウで、CIタイプを含むテーブルを更新します。

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	HP Universal CMDB 9.xのCIタイプ
memory	memory
host	node
このCITは、HP Universal CMDB 8.xでは使用しません	logicaldisk
ip	ip_address
file system	file_system

12 [**統合**] > [**HP Universal CMDB**] > [**潜在変更**] > [**CIタイプに一致する変更タイプ**] > [**追加されたソフトウェア**] ウィンドウで、CIタイプを含むテーブルを更新します。

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	属性
software element	installed software
daemon	daemon
service	window_service
process	process
file	file

13 [**変更プロセス**] > [**インパクト分析ルール**] ウィンドウで、次のCIタイプを含むテーブルを更新します。

HP Universal CMDB 8.xのCIタイプ	属性
host	node
ip	ip_address
ip_range	ip_range
business	business _elements

14 [**統合**] > [**フィールド**] ウィンドウで、前の手順で新しく設定した分析ルールが、各フィールドに適用されていることを確認します。

15 構成セットのドラフトを保存します (「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

16 「構成の変更のアクティブ化」(74ページ) の説明に従って、構成セットをアクティブにします。

サービスデスク統合の構成

次に示すよう に、サービスデスクの構成は、使用するサービスデスクによって異なります。

サービスデスク	手順
HP Service Manager	「HP Service Managerの統合の構成」(35ページ)
HP ServiceCenter	「HP ServiceCenterの統合の構成」(42ページ)
HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center	「HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center の統合の構成」(48ページ)
BMC Remedy Action Request System	「BMC Remedy Action Request Systemの統合の構成」(51ページ)

サービスデスク	手順
HP Service Desk	「HP Service Deskの統合の構成」（54ページ）
データベース	「データベースをサービスデスクとして構成」（57ページ）
XMLファイル	「XMLファイルをサービスデスクとして構成」（61ページ）
HP Server AutomationおよびHP Network Automation	「HP Server AutomationまたはHP Network Automationをサービスデスクとして構成」（63ページ）
Aperture Vista DCIM	「Aperture Vista DCIMをサービスデスクとして構成」（65ページ）

HP Service Managerの統合の構成

このタスクでは、HP Service Managerをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

- 「ステージ1：前提条件」（36ページ）
- 「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（38ページ）
- 「ステージ3：構成変更の適用」（40ページ）

注意：HP Release ControlおよびHP Service Managerサーバーがあるサーバーは、同じタイムゾーンで実行されていることが必要です。

ステージ1：前提条件

1 以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	HP Service Managerのバージョン
	HP Service Manager 7.10より古いバージョン： HP Service ManagerでIIA (ITSM Implementation Accelerator) コンテンツが有効になっていますか。
	HP Lightweight Single Sign On (LW-SSO) を使用していますか。
	HP Service Manager**ユーザー名**、**パスワード**、**タイムゾーン**、**ホスト名**、**ポート** **注**：タイムゾーンにはJava命名規則を使用します。
	HP Service Manager WSDLファイルへのアクセスにHTTPSが必要ですか。 **注**：HP Service ManagerでSSLを使用する設定が行われている場合、SSL証明書をHP Service ManagerからHP Release Controlサーバーにインポートする必要があります。
	HP Service Manager WSDLファイルのURLサフィックス (デフォルトはsc62server/PWS)

注意：HP Service Managerでは、WebサービスはHTTPリダイレクトをサポートしないため、Webサービスの導入時にHP Service Manager内蔵の負荷分散装置で技術的な問題が発生します。負荷分散装置を使用する設定を行ったHP Service ManagerとHP Release Controlを連携するには、HP Service Managerに付属する負荷分散装置以外のものを使用する設定を行う必要があります。たとえば、Cisco CSSなどがあります。

---

2 **HP Service Manager 7.10より古いバージョンを使用し、IIAコンテンツが有効でない場合**：HP Service Managerクライアントで、[**システム定義**] > [**テーブル**] > [**cm3t**] を選択します。[**actualEnd**] フィールドと [**actualStart**] フィールドを追加します。データ型を**日付/時刻**に設定します。

3 **HP Service Manager 7.11 以前のバージョンを使用している場合 :** 次の手順に従って、HP Release Controlアップロードファイルをロードします。

a HP Service Managerクライアントで、Database Managerを選択します。

b ドロップダウンメニューから [**インポート / ロード**] オプションを選択します。

c 目的のHP Service Managerファイルを **<HP Release Control インストールディレクトリ >\examples\service-desk-examples\ServiceManager\<HP Service Manager バージョン >\unload-files** から読み込みます。

注意： HP Service Manager 7.11 (webtier) を使用している場合、**SMRC1.2_Demo_v6.22.unl** アンロードファイルによって、以前のメニューが上書きされ、カスタマイズした内容が消去される可能性があります。このファイルを使用すると、HP Release Control インタフェース (変更カレンダーなど) に HP Service Manager 7.11から直接アクセスできます。

このアンロードファイルを読み込まず、手動で操作したい場合は、「付録：SMRC1.2_Demo_v6.22.unlの手動による実行」（41ページ）を参照してください。

---

d ファイルごとに、[**フォアグランドでロード**] をクリックします。

4 **HP Service Manager 7.11 (webtier) を使用している場合 : <HP Release Control インストールディレクトリ >\example\service-desk-examples\ServiceManager\service-manager-711\webtier\images\obj16** の内容を、対応するHP Service Manager webtierディレクトリにコピーします。

5 **HP Service Manager 7.11 以前のバージョンを使用している場合：** HP Release Control サーバー URLをHP Service Managerで構成します。

a HP Service Managerで、[**システム管理**] > [**ベースシステム設定**] > [**その他**] > [**システム情報レコード**] を選択します。

b [**アクティブ統合**] タブで、[**HP Release Control**] を選択します。

c [**Web サーバー URL**] ボックスにHP Release Controlサーバーの URL を入力します。例：

```
http://server:8080/ccm
```

6 **(オプション) HP Service Managerバージョン9.20のみを使用している場合：**
HP Service Managerの [**カスタマイズ**] > [**統合マネージャー**] で、HP Release Controlを HP Service Manager統合に追加し、有効にします。詳細については、HP Service Managerのドキュメントを参照してください。

7 HP Release ControlからHP Service Managerにアクセスするユーザーは、[**SOAP API Execute Capabilities**] を有効にする必要があります。HP Service Managerで、担当オペレータのこのオプションが有効になっていることを確認してください。

8 (**オプション**) 次の手順で**SdiConfigurer.bat**ユーティリティを実行しますが、一部のHP Service Managerフィールドは HP Release Controlフィールドへ自動的にマッピングされます。マッピングするフィールドを追加したい場合は、HP Service Managerの **ChangeRC/ChangeTaskRC** 外部アクセスオブジェクトでフィールドを公開します。変換スクリプトでのフィールドのマッピングは、「ステージ3：構成変更の適用」の手順3で行います (40ページを参照してください)。

注意：フィールドの公開とマッピングでは、デフォルトの**Change**と**ChangeTask**外部アクセスオブジェクトではなく、HP Release Control専用の**ChangeRC**と**ChangeTaskRC**外部アクセスオブジェクトを使用してください。

ステージ2：構成ユーティリティの実行

Windowsシステムの場合：

Windowsコマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Controlインストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

Linuxシステムの場合：

1. Linuxシステムに**root**としてログインします。
2. 次のコマンドを実行して、ユーザー名release-controlでHP Release Controlにログインします。

```
su - release-control
```

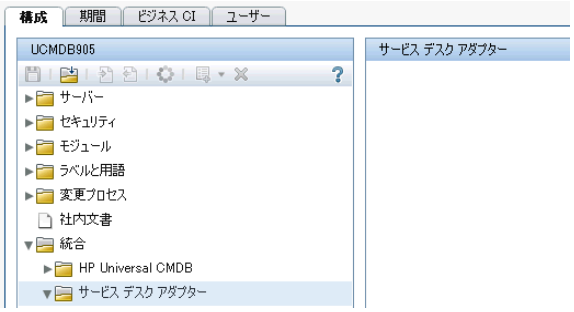
3. **cd bin**コマンドを実行して、HP Release Controlインストールディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを実行します。

```
./SdiConfigurer.sh
```

質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

ステージ3：構成変更の適用

1 HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2 [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 「ステージ1：前提条件」の手順8で追加フィールドを公開している場合 (38ページを参照してください)、変換スクリプト (**convertChange.js/convertTask.js**) でフィールドをマッピングします。

- 変換スクリプトを表示するには、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] > **<アダプター名>** ノードを選択し、右ウィンドウでファイルを表示するタブを選択します。
- スクリプトを変更する方法については、「[構成] タブでの構成ファイルの変更」(73ページ) を参照してください。

4 HP Service Managerを分析情報で更新するように、HP Release Controlを構成することができます。詳細については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』の項を参照してください。

5 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

6 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

付録：SMRC1.2_Demo_v6.22.unlの手動による実行

SMRC1.2_Demo_v6.22.unlファイルを使用すると、HP Release Control インタフェースに HP Service Manager から直接アクセスできます。このアンロードファイルを使用すると、前のメニューが上書きされる場合や、カスタマイズした内容が消去される場合があります。ここでは、アンロードファイルを読み込まず、操作を手動で行う方法について説明します。

SMRC1.2_Demo_v6.22.unl ファイルの内容を手動で実行するには：

1 **Info**テーブルに以下の4つのフィールドを追加します。

フィールド名	データ型
RC	論理
RC.server.url	文字
RC.SD.name	文字
RC.task	論理

2 **フォームデザイナ**を使用して、**info.company.g**フォームに次のコントロールを追加します。

コントロール	タイプ	Input
HP Release Control	チェックボックス	RC
Server URL	テキスト	RC.server.url

コントロール	タイプ	Input
指定のサービスデスク	テキスト	RC.SD.name
変更タスクのRCリンクを有効化	チェックボックス	RC.task

3 **ChM** メニュー名については、次のオプションを追加します。

説明	アプリケーション	条件
RCカレンダー	us.launch.rc.calendar	stem.info=1 and nullsub($G.ess, false)=false and sysinfo.get("environment")#"scguiwweb" and lioption("Change Management") and (index("SysAdmin", $lo.ucapex)>0 or index("ChMAdmin", $lo.ucapex)>0 or index("change request", $lo.ucapex)>0)

4 **CM DETAIL** メニュー名については、次のオプションを追加します。

説明	アプリケーション	条件
RCカレンダー	us.launch.rc.calendar	RC in $G.system.info=1 and nullsub($G.ess, false)=false and sysinfo.get("environment")#"scguiwweb"

5 変更内容を確認するには、影響を受けるCIを持ち、クローズされていない変更をWebクライアントから開き、[**詳細オプション**] コンテキストメニューに [**RC カレンダー**] オプションが存在することをチェックします。

HP ServiceCenterの統合の構成

このタスクでは、HP ServiceCenterをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

➤「ステージ1：前提条件」（43ページ）

➤「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（46ページ）

➤「ステージ3：構成変更の適用」（46ページ）

ステージ1：前提条件

1 以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	HP ServiceCenterバージョン
	HP Lightweight Single Sign On (LW-SSO) を使用していますか。
	HP Service Manager**ユーザー名**、**パスワード**、**タイムゾーン**、**ホスト名**、**ポート** **注**：タイムゾーンにはJava命名規則を使用します。
	HP Service Manager WSDLファイルへのアクセスにHTTPSが必要ですか。 **注**：HP ServiceCenterでSSLを使用する設定が行われている場合、SSL証明書をHP ServiceCenterからHP Release Controlサーバーにインポートする必要があります。
	HP Service Manager WSDLファイルのURLサフィックス

注意：HP Service Managerでは、WebサービスはHTTPリダイレクトをサポートしないため、Webサービスの導入時にHP Service Manager内蔵の負荷分散装置で技術的な問題が発生します。負荷分散装置を使用する設定を行ったHP Service ManagerとHP Release Controlを連携するには、HP Service Managerに付属する負荷分散装置以外のものを使用する設定を行う必要があります。たとえば、Cisco CSSなどがあります。

---

2 次の手順に従って、HP Release Controlアップロードファイルをロードします。

a HP ServiceCenterクライアントで、[**データベース マネージャー**] を選択します。

b ドロップダウンメニューから [**インポート / ロード**] オプションを選択します。

c 目的のHP ServiceCenterファイルを **<HP Release Controlインストールディレクトリ>\examples\service-desk-examples\ServiceCenter\<HP ServiceCenterディレクトリ>\unload-files**から読み込みます。

d [**フォアグラウンドでロード**] をクリックします。

3 HP ServiceCenterクライアント (Eclipse Client) で、[**システム定義**] > [**テーブル**] > [**cm3t**] を選択します。[**implementationEnd**] フィールドと [**implementationStart**] フィールドを追加します。データ型を**日付/時刻**に設定し、[**APIに含める**] ボックスを選択します。

4 HP ServiceCenterクライアントで、[**システム定義**] > [**テーブル**] > [**cm3t**] を選択します。[**actualEnd**] フィールドと [**actualStart**] フィールドを追加します。データ型を**日付/時刻**に設定し、[**APIに含める**] ボックスを選択します。

5 HP ServiceCenter変更フィールドを公開します。

a HP ServiceCenterで、[**ナビゲーション メニュー**] > [**ツールキット**] > [**WSDL 設定**] を選択します。

b [**名前**] ボックスに、「cm3r」と入力してENTERを押します。

c [データ ポリシ] タブで、公開フィールドの一覧に、次のフィールドおよび該当のプロパティが含まれていることを確認します。

フィールド名	APIキャプション	除外	APIデータ型
approval.structure,approvals.required	ApprovalsRequired	false	
approval.structure,approved.groups	ApprovedGroups	false	
approval.structure,current.pending.groups	CurrentPendingGroups	false	
header,orig.date.entered	OrigDateEntered	false	
implementationEnd	ImplementationEnd	false	日付/時刻タイプ
implementationStart	ImplementationStart	false	日付/時刻タイプ
sysmodtime	sysmodtime	false	

d [**保存**] をクリックします。

6 HP ServiceCenterタスクフィールドを公開します。

a HP ServiceCenterで、[**ナビゲーション メニュー**] > [**ツールキット**] > [**WSDL 設定**] を選択します。

b [**名前**] ボックスに、「cm3t」と入力してENTERを押します。

c [データ ポリシ] タブで、公開フィールドの一覧に、次のフィールドおよび該当のプロパティが含まれていることを確認します。

フィールド名	APIキャプション	除外	APIデータ型
actualEnd	ActualEnd	false	日付/時刻タイプ
actualStart	ActualStart	false	日付/時刻タイプ
approval.structure,approvals.required	ApprovalsRequired	false	
approval.structure,approved.groups	ApprovedGroups	false	
approval.structure,current.pending.groups	CurrentPendingGroups	false	
header,approval.status	ApprovalStatus	false	
header,orig.date.entered	OrigDateEntered	false	
header,priority.code	Priority	false	
header,risk.assessment	RiskAssessment	false	
middle,asset	Asset	false	
sysmodtime	sysmodtime	false	

d [**保存**] をクリックします。

7 HP ServiceCenterを再起動します。

8 (オプション) 次の手順で**SdiConfigurer.bat**ユーティリティを実行しますが、一部のHP ServiceCenterフィールドはHP Release Controlフィールドへ自動的にマッピングされます。マッピングするフィールドを追加したい場合は、HP ServiceCenterの**Change/ChangeTask**外部アクセスオブジェクトでフィールドを公開します。「ステージ3：構成変更の適用」の手順3 (47ページを参照してください) では、変換スクリプトでこのフィールドのマッピングを行います。

ステージ2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

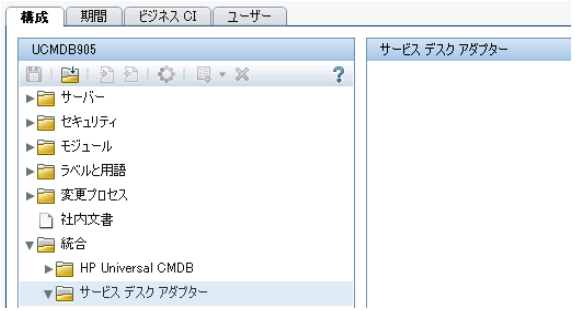
質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ3：構成変更の適用

1. HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2. [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 「ステージ 1 : 前提条件」の手順 8 で追加フィールドを公開している場合 (45 ページを参照してください)、変換スクリプト (**convertChange.js/convertTask.js**) でフィールドをマッピングします。

- 変換スクリプトを表示するには、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] > **<アダプター名>** ノードを選択し、右ウィンドウでファイルを表示するタブを選択します。
- スクリプトを変更する方法については、「[構成] タブでの構成ファイルの変更」(73 ページ) を参照してください。

4 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73 ページ) を参照してください)。

5 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74 ページ) を参照してください)。

6 HP Release Control から HP ServiceCenter にアクセスするユーザーは、[**SOAP API Execute Capabilities**] を有効にする必要があります。HP ServiceCenter で、担当オペレータのこのオプションが有効になっていることを確認してください。

注意 : 初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

HP Project and Portfolio Management / IT Governance Centerの統合の構成

このタスクでは、HP Project and Portfolio Management / IT Governance Centerをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

- 「ステージ1：前提条件」（48ページ）
- 「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（49ページ）
- 「ステージ3：構成変更の適用」（50ページ）

ステージ1：前提条件

1 以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	HP Project and Portfolio Management / IT Governance Centerのバージョン
	サービスデスク**ユーザー名**、**パスワード**、**ホスト名**、**ポート**
	(オプション) HP Release Controlとの認証統合を行う場合、次の情報が必要です。認証統合を使用すると、HP Release Controlで変更要求を承認すると、サービスデスク内のワークフローステータスが更新されます。 ➤ ソースワークフローステップ。HP Project and Portfolio Managementのどのステップの承認が必要かを決定します。このステップは、HP Release Control承認ステータスで更新されます。 ➤ Oracle DB SID (システムID) ➤ Oracle DBホスト名 ➤ Oracle DBポート ➤ Oracle DBユーザー名 ➤ Oracle DBパスワード
	HP ProjectおよびPortfolio Managementの**ワークフローステップ**を記録しておきます。これは、HP ProjectおよびPortfolio Managementワークベンチで参照できます。詳細については、HP ProjectおよびPortfolio Managementのドキュメントを参照してください。

2 **HP Project and Portfolio Management 7.5よりも古いバージョン**：HP Project and Portfolio Management / IT Governance Center Web Servicesサービスデスクアプリケーションを CMDBサーバーと同期している場合は、データ型が**文字列**の **mam-ticket-id** という名前の変更要求フィールドをHP Release Controlに新しく追加してください。このフィールドに分析ルール **mam-ticket** を適用し、分析ルールレベルを **Change** と **Task** の両方に設定します。

変更要求フィールドの新規作成と分析ルールの適用については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』に記載されている変更要求フィールドの作成と変更に関する項を参照してください。

ステージ2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

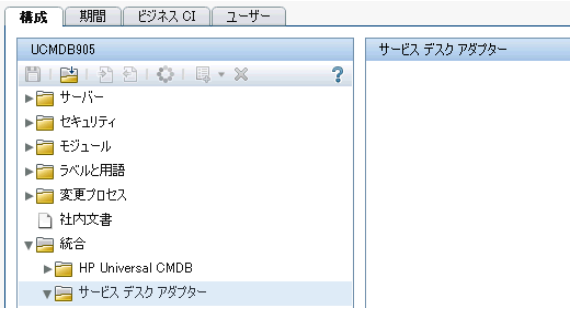
質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ3：構成変更の適用

1 HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2 [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 変換スクリプト（**convertRelease.js/convertChange.js**）を使用して、HP Project and Portfolio Management のワークフローステップ (構成の前提条件として記録した内容) を、HP Release Control のステータス名にマッピングします。

➤ 変換スクリプトを表示するには、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] > **<アダプター名>** ノードを選択し、右ウィンドウでファイルを表示するタブを選択します。

➤ スクリプトを変更する方法については、「[構成] タブでの構成ファイルの変更」（73ページ）を参照してください。

4 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」（73ページ）を参照してください)。

5 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

BMC Remedy Action Request Systemの統合の構成

このタスクでは、BMC Remedy Action Request Systemをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

- 「ステージ1：前提条件」（51ページ）
- 「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（51ページ）
- 「ステージ3：BMC RemedyファイルをHP Release Controlにコピー」（52ページ）
- 「ステージ4：構成変更の適用」（53ページ）

ステージ1：前提条件

以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	BMC Remedyのバージョン
	BMC Remedy**ユーザー名**、**パスワード**、**サーバー名**

ステージ2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Controlインストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ3：BMC RemedyファイルをHP Release Controlにコピー

BMC Remedy Action Request Systemサービスデスクアプリケーションを接続するには、特定のBMC Remedy Action Request SystemファイルがHP Release Controlサーバーにアクセス可能な状態にする必要があります。

1 HP Release Controlサービスを停止します。

a Windowsメニューで [**スタート**] > [**ファイル名を指定して実行**] の順に選択し、「**services.msc**」と入力します。

b [サービス] ウィンドウで、[**HP ReleaseControl 9.20 <サーバー名>**] を選択し、[**サービスの停止**] をクリックします。

2 BMC RemedyファイルをHP Release Controlにコピーします。

➤ **BMC Remedy ARS 5.0の場合：**

a **arapi50.jar**と**arutil50.jar**を、BMC Remedy Action Request Systemインストールディレクトリから **<HP Release Control インストールディレクトリ>\tomcat\lib** ディレクトリにコピーします。

b **arapi50.dll**、**arjni50.dll**、**arrpc50.dll**、**arutl50.dll**を、BMC Remedy Action Request Systemインストールディレクトリから、HP Release Controlサーバーマシン上の **<HP Release Control インストール ディレクトリ>\apps\ccm\WEB-INF\os_lib\win32**ディレクトリにコピーします。

➤ **BMC Remedy ARS 7.0の場合：**

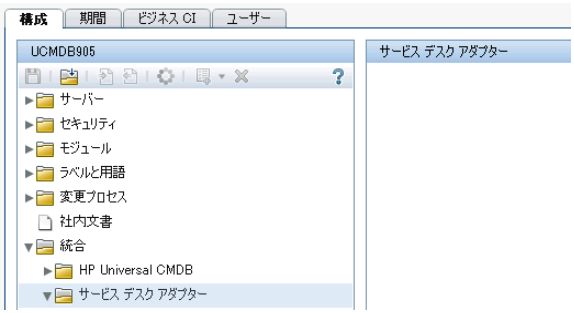
c **arapi70.jar**と**arutil70.jar**をBMC Remedy Action Request Systemインストールディレクトリから、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\tomcat\lib**ディレクトリにコピーします。

d すべてのWindowsライブラリファイル (*.dll) を BMC Remedy Action Request System インストールディレクトリから、HP Release Controlサーバーマシン上の **<HP Release Control インストール ディレクトリ> \apps\ccm\WEB-INF\os_lib\win32**ディレクトリにコピーします。

3 HP Release Controlサービスを開始します。

ステージ4：構成変更の適用

1 HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2 [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zipファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ)を参照してください)。

4 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

HP Service Deskの統合の構成

このタスクでは、HP Service Deskをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

- 「ステージ1：前提条件」（54ページ）
- 「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（55ページ）
- 「ステージ3：HP Service DeskファイルをHP Release Controlへコピー」（55ページ）
- 「ステージ4：構成変更の適用」（56ページ）

ステージ1：前提条件

以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	HP Service Desk**サーバー名**と**ポート**
	HP Service Desk**ユーザー名**と**パスワード**

ステージ2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

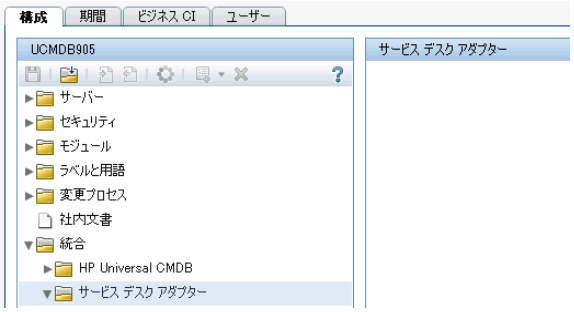
ステージ3：HP Service DeskファイルをHP Release Controlへコピー

BMC Remedy Action Request Systemサービスデスクアプリケーションを接続するには、特定のBMC Remedy Action Request SystemファイルがHP Release Controlサーバーにアクセス可能な状態にする必要があります。

1. HP Release Controlサービスを停止します。
   - **a** Windowsメニューで [**スタート**] > [**ファイル名を指定して実行**] の順に選択し、「**services.msc**」と入力します。
   - **b** [サービス] ウィンドウで、[**HP ReleaseControl 9.20 <サーバー名>**] を選択し、[**サービスの停止**] をクリックします。
2. **web-api.jar**ファイルを、HP Service Desk **servicepages\webapps\sd-sp45\WEB-INF\lib**ディレクトリからコピーし、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\tomcat\lib**ディレクトリに貼り付けます。
3. HP Release Controlサービスを開始します。

ステージ 4：構成変更の適用

1 HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2 [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

4 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74ページ) を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

データベースをサービスデスクとして構成

このタスクでは、データベースをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

➤「ステージ1：前提条件」（57ページ）

➤「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（59ページ）

➤「ステージ3：構成変更の適用」（60ページ）

ステージ1：前提条件

使用しているデータベースについて、構成プロセスで必要になる接続情報とデータベースプロパティを確認してください。

Oracleデータベースと MS-SQLデータベース

✔	必要な情報	説明
	➤ **Oracle　データベース**。Oracle SID、DBホスト名、ポート、ユーザー名、パスワード。 ➤ **MS-SQLデータベース。**DB名、DBホスト名、ポート、ユーザー名、パスワード。	データベース接続プロパティ
	変更ID列名 **注：**このフィールドの設定ファイルでの名前は**IdFieldName**です。	IDフィールド値が格納されている、解析結果セット内の列の名前。

✔	必要な情報	説明
	ID選択クエリ	変更要求の**last-updated**フィールドの値に基づいて、変更要求IDを返すSQLクエリ。 **重要：**このクエリでは、最後の変更要求を取得した日付を指定しないでください。指定すると、同じ変更要求が毎回取得され、無限ループが発生します。 **正しいクエリの例：** このクエリでは、最後に変更要求を取得した日付が指定されていません。この日付は、最後に変更要求を取得した日付よりも後でなければなりません。 たとえば、最後の変更要求が2010年2月1日に取得された場合、最後の変更要求の取得日を次のように設定します。 select change_id from changes where last_updated > ? **誤ったクエリの例：** このクエリでは、最後に変更要求を取得した日付が指定されています。これにより、同じ変更要求が毎回取得され、無限ループが発生する可能性があります。 select change_id from changes where last_updated >= ?
	IDで変更要求を選択するクエリ	特定の変更の詳細情報をすべて返すSQLクエリです。 **正しいクエリの例：** select * from changes where change_id=?

✔	必要な情報	説明
	最後に更新されたフィールド結果を含む列名 **注：**このフィールドの設定ファイルでの名前は **lastUpdatedFieldName** です。	**last-update** フィールド値が格納されている、解析結果セット内の列の名前。
	最後に更新された列タイプ	次の値のいずれかです。**time**、**timestamp**、**date**、**milliseconds**、**seconds**。

ステージ 2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

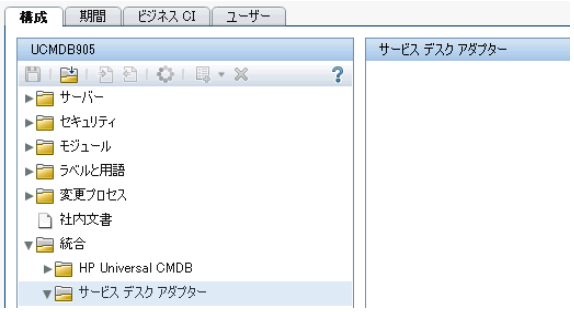
質問が表示されるので、回答を入力してから ENTER を押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないで ENTER を押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zip ファイルなど) を新規作成します。構成設定を HP Release Control に適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zip ファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ 3：構成変更の適用

1 HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2 [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

4 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74ページ) を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

XMLファイルをサービスデスクとして構成

このタスクでは、XMLファイルをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

➤「ステージ1：前提条件」（61ページ）

➤「ステージ2：構成ユーティリティの実行」（62ページ）

➤「ステージ3：構成変更の適用」（62ページ）

ステージ1：前提条件

1. HP Release ControlがXMLファイルを格納および読み出すフォルダーを確認します。この情報は、次の手順で実行する構成ユーティリティで必要になります。
2. サービスアプリケーション要求 (XMLファイル形式) が格納されているディレクトリに対する読み取り権限が、HP Release Controlユーザーに割り当てられていることを確認してください。

ステージ2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

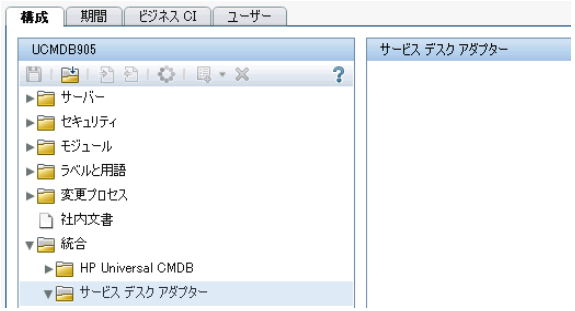
質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ3：構成変更の適用

1. HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2. [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

4 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74ページ) を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

HP Server AutomationまたはHP Network Automationをサービスデスクとして構成

このタスクでは、<サービスデスク>をサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

- 「ステージ1：前提条件」(63ページ)
- 「ステージ2：構成ユーティリティの実行」(64ページ)
- 「ステージ3：構成変更の適用」(64ページ)

ステージ1：前提条件

1 以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	HP Server Automation：サーバー名、ユーザー名、パスワード
	HP Network Automation：サーバー URL、ユーザー名、パスワード

ステージ2：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

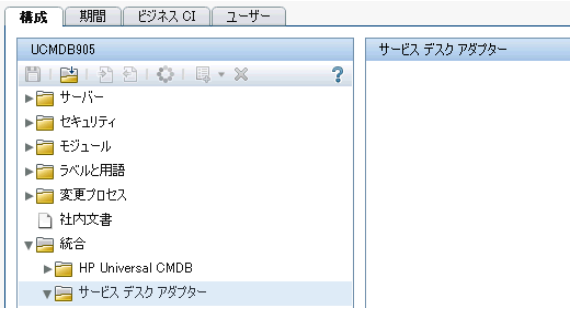
質問が表示されるので、回答を入力してからENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ3：構成変更の適用

1. HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2. [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result**を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」(73ページ) を参照してください)。

4 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」(74ページ) を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

Aperture Vista DCIMをサービスデスクとして構成

このタスクでは、Aperture Vista DCIMをサービスデスクとして構成する方法について、次のステージに沿って説明します。

- 「ステージ1：前提条件」(66ページ)
- 「ステージ2：SQLを実行して、Aperture Vista DCIMデータベースにHP Release Controlビューを作成します。」(66ページ)
- 「ステージ3：構成ユーティリティの実行」(66ページ)
- 「ステージ4：構成変更の適用」(67ページ)

ステージ1：前提条件

1 以下は、この構成プロセスで必要な情報です。内容を確認してください。

✔	必要な情報
	Aperture Vista DCIMバージョン6がサポートされています。
	Aperture Vista DCIM**データベース名**、**ユーザー名**、**パスワード**、**ホスト名**、**ポート** (デフォルトポートは1433)

ステージ2：SQLを実行して、Aperture Vista DCIMデータベースにHP Release Controlビューを作成します。

1 Aperture Vista DCIMデータベースに接続します。(Aperture Vista DCIMデータベースの前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。

2 **<HP Release Controlインストールディレクトリ>\\examples\service-desk-examples\ApertureVista\CreateRcView.sql**ファイルを実行します。

ステージ3：構成ユーティリティの実行

コマンド行で次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Controlインストールディレクトリ>\bin\SdiConfigurer.bat
```

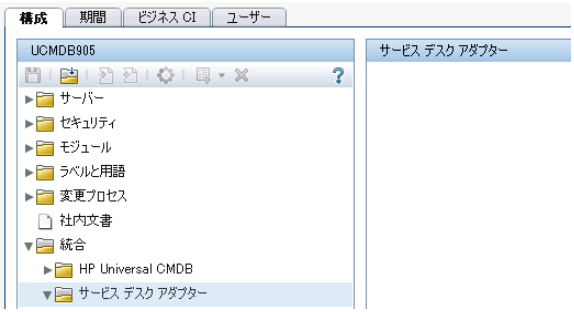
オプション**10**を選択し、表示された質問に対して回答を選んでENTERを押します。(前提条件の項の最初で確認した内容を参照してください)。質問の末尾の角カッコ内に、デフォルト値が表示されます。

注意：何も入力しないでENTERを押すと、デフォルト値が自動的に選択されます。

構成ユーティリティは、選択した値に基づいて構成ファイル (.zipファイルなど) を新規作成します。構成設定をHP Release Controlに適用するには、[**構成セットに構成を追加**] ボタンをクリックして、.zipファイルをアップロードします。次の手順に従ってください。

ステージ 4：構成変更の適用

1 HP Release Controlで [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] を選択し、[**構成セットのインポート**] ボタンをクリックします。



2 [Select file to upload(アップロードするファイルを選択)] ダイアログボックスで、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\result** を選択し、**<adapter_name>.zip ファイルを開きます。**

新しいノード (アダプターの名前が付いています) が、[**統合**] > [**サービス デスク アダプター**] ノードに追加されます。このノードには、新しいサービスデスク構成ファイルが格納されており、そのファイルは独立して左側ウィンドウに表示されます。構成ファイルを選択すると、その内容が右側ウィンドウに表示されます。

3 **convert.js** ファイルの **EMAC_URL_part1** セクションで、**aperture_vista_host** フィールドではなく、Aperture Vista サーバーの URL を入力します (「[構成] タブでの構成ファイルの変更」（73 ページ）を参照してください)。

4 構成セットのドラフトを保存します。(「ドラフトの構成セットの保存」（73 ページ）を参照してください)。

5 構成の変更を確認してから、ドラフトをアクティブ化します。(「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）を参照してください)。

注意：初期構成の後でサービスデスク設定を変更するには、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のサービスデスク詳細構成に関する項を参照してください。

Webサーバーの構成

HP Release Control を導入すると、Web サーバーとの連携が可能になります。HP Release Control と同じコンピューターに、次のいずれかの Web サーバーをインストールできます。

- Microsoft Internet Information Services (IIS) 5.x または6.x
- Apache HTTP Server 2.2x

  Apacheは、**<HP Release Control インストールディレクトリ> \utilities\webServerConfigurer\apache**ディレクトリにインストールします。

注意 : Apacheサーバーに Microsoft IIS Webサーバーが既にインストールされ、アクティブ化されている場合、Apache サーバーで HP Release Control を構成することはできません。これは、いずれの Web サーバーでもデフォルトポートが 80 であるためです。したがって、まず Microsoft IIS Web サーバーを停止する必要があります。インストール後に、Apache Web サーバーを別のポート (例 : 90) で動作するように設定してから、IIS を再起動します。

Webサーバー設定が必要になるのは、次のような場合です。

- CA SiteMinderなどのサードパーティ製ID管理ソリューションで作業している場合。
- Tomcatのクラスター構成で使用するソフトウェア負荷分散装置が、Tomcat との通信に AJPプロトコルを使用できない場合。

Webサーバー設定には、**Webサーバーの構成**ユーティリティを使用します。

注意: Webサーバーのインストール完了後、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**サーバー**] ウィンドウの [**サーバー アドレス**] ボックスで、Webサーバーのポートが指定されていることを確認してください。サーバーアドレスが正しく設定されていないと、電子メールとレポートは正しく動作しません。詳細については、「[サーバー] ウィンドウ」（571ページ）を参照してください。

Webサーバーの構成ユーティリティを使用するには：

次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\WebServerConfigurer.bat <オプション>
```

以下は、コマンド行の <オプション> です。

オプション	説明
config apache <ポート> <apacheホームディレクトリ>	Apache Web サーバーを構成します。以下の Apache 構成オプションを指定します。 ➤ **<ポート>。** Apache Webサーバーで使用するポート。 ➤ **<apacheホームディレクトリ>。** Apache Webサーバーのインストールディレクトリ。
config IIS, <ポート> <バージョン> <RC Webサイト>	以下のIISサーバーの構成オプションを指定します。 ➤ **< ポート >。** サーバーで使用されるポート。デフォルトのポートは80です。 ➤ **<バージョン>**。Webサーバーのバージョンで、5または6。 ➤ **<RC Webサイト>。** HP Release Control用に定義されたWebサイト。IISの新規インストールでは、HP Release Controlのデフォルトのサイトは、**デフォルト Webサイト**と呼ばれます。

オプション	説明
--encrypted-password-file <ファイル>	<ファイル> で指定した暗号化パスワードを使用します。
remove-config	Web サーバーとの連携を行わないように、HP Release Control を構成します。このコマンドを実行しても、Web サーバーはアンインストールされません。 **注：<HP Release Control インストールディレクトリ> \conf\server.settings** ファイルでは、**server-address** プロパティの HP Release Control のポート番号は、Tomcat のデフォルトのポート (8080) にリセットされます。HP Release Control と Tomcat のポート番号が同じであることを確認してください。

例：

➤ Apache サーバーをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\WebServerConfigurer.bat install
apache "C:\Apache Software Foundation\Apache 2.2"
```

➤ デフォルトのWebサイトに対してIISサーバーのバージョン6を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\WebServerConfigurer.bat config IIS
6 "Default Web Site"
```

注意：

- Webサーバーの構成ユーティリティを使用してIIS Webサーバーを設定すると、IISからHP Release Control Tomcatサーバーへのリダイレクトを行うISAPIフィルターのステータスが**不明**になることがあります。ユーザーが初めてHP Release Controlにログオンした時点で、ISAPIフィルターのステータスは**準備完了**に更新されるはずです。
- 既存のISAPIフィルターが動作中のIIS Webサーバーを構成することはできません。これを行うには、インストール済みのmod_jk ISAPIフィルターを削除し、Webサーバーの構成ユーティリティを使用してIISをHP Release Control用に設定する必要があります。

- Webサーバーの設定を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\WebServerConfigurer.bat
remove-config
```

サーバーリバースプロキシ経由でのHP Release Controlへのアクセス

サーバーリバースプロキシ (SRP) 経由でのHP Release Controlへのアクセスを有効にすることができます。

SRP経由でのHP Release Controlへのアクセスを有効にするには：

1. **/ccm**および**/rcdocs**のパスを、HP Release ControlがインストールされているリモートサーバーのURLにマッピングします。

   たとえば、リバースプロキシがApacheサーバーの場合は、次の行を**https.conf**ファイルに追加します。

```
ProxyPass /ccm http://<RC_HOST_NAME>:<RC_HTTP_PORT>/ccm
ProxyPassReverse /ccm http://<RC_HOST_NAME>:<RC_HTTP_PORT>/ccm
ProxyPass /rcdocs http://<RC_HOST_NAME>:<RC_HTTP_PORT>/rcdocs
ProxyPassReverse /rcdocs http://<RC_HOST_NAME>:<RC_HTTP_PORT>/rcdocs
```

/rcdocsは、ccmに加えて、追加アプリケーションとしてリバースプロキシサーバーで構成されている必要があります。

2 ファイルを保存し、Apacheサーバーを再起動して、構成を有効にします。

HP Release ControlのアクセスURLは、リバースプロキシホストを参照する必要があります。例：

それぞれ、**http://<proxy_host>/ccm**および**http://<proxy host>/rcdocs**。

注意：リバースプロキシのタイプが異なれば、必要な構成手順も異なることがあります。詳細については、使用するプロキシサーバーのドキュメントを参照してください。

SRPとともにHTTPSを使用するには：

1 HP Release Controlが、自己署名またはCA証明書を使ってHTTPSプロトコルで動作するように構成します。

2 セキュリティ証明書をHP Release Controlからエクスポートし、プロキシサーバーのトラストストアにインポートします。

注意：Apacheサーバーでは、トラストストアファイル(cacertsファイル)はインストールに含まれません。PEMでエンコードされたcacertsファイルを新規に作成することが必要な場合があります。詳細については、Apacheのドキュメントを参照してください。

---

3 Apacheサーバーを使用している場合は、71ページの手順1の指示に従って、**https.conf**ファイルに行を追加します。

HP Release Controlの構成設定

管理者モジュールにある [構成] タブでは、環境のセットアップに必要な構成設定を定義します。ここでは、[構成] タブで行う以下のタスクについて説明します。このタスクは、構成プロセスで実行されます。

➤「[構成] タブでの構成ファイルの変更」（73ページ）

➤「ドラフトの構成セットの保存」（73ページ）

➤「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）

[構成] タブでの構成ファイルの変更

構成設定は､[構成] タブに表示される構成ファイル (スクリプトファイルおよびXMLファイルなど) 内で定義されます。このタスクでは、構成ファイルの変更方法を説明します。

構成ファイルを変更するには：

1. HP Release Controlで、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブを選択し、修正する構成ファイルを選択します。そのファイルの内容が右側のウィンドウに表示されます。
2. 必要な修正をファイルに加えたら、[**現在の編集できる構成セットの保存**] ボタンをクリックして、[ドラフトとして保存] ダイアログボックスを開き、修正した構成セットをドラフトとして保存します。

ドラフトの構成セットの保存

構成セットを新しく作成すると、ドラフトとして保存されます。ドラフトとは、まだアクティブになっていない構成セットです。ドラフトがアクティブになった時点で、新しい構成プロパティがHP Release Controlに適用されます。(「構成の変更のアクティブ化」（74ページ）を参照してください)。

ドラフトの構成セットを保存するには：

1. [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブを選択して、必要な構成の変更を行います。
2. 左ウィンドウにある [**現在の編集できる構成セット の保存**] ボタンをクリックすると、[ドラフトとして保存] ダイアログボックスが開きます。ここで、変更した構成セットをドラフトとして保存します。

3 [**ドラフト名**] ボックスにドラフトの名前を入力し、[**保存**] をクリックします。

構成の変更のアクティブ化

ここでは、ドラフトの構成セットをアクティブにして、構成プロパティをHP Release Controlに適用する方法について説明します。

構成の変更を適用するには：

1 [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブをクリックします。左ウィンドウで、[**構成セットを開く**] ボタン をクリックすると、[構成セットを開く] ダイアログボックスが開きます。

2 [**ドラフト**] ボタンを押すと、既存のドラフトのみが表示されます。

3 必要なドラフトを選択して、[**オープン**] をクリックします。現在選択されている構成セットの名前が左ウィンドウの一番上に表示されます。

4 左ウィンドウで、[**現在の構成セットのアクティベーション**] ボタンをクリックすると、選択されているドラフトがアクティブになり、HP Release Controlに新しい構成プロパティが適用されます。

HP Release Controlのアンインストール

HP Release Controlは、コントロールパネルを使ってWindowsから削除できます。また、Linuxからは、一連のシェルコマンドを実行してHP Release Controlを削除できます。

WindowsからHP Release Controlを削除するには：

1 [**スタート**] > [**コントロールパネル**] > [**プログラムの追加と削除**] をクリックします。

2 プログラムリストからHP Release Controlを選択し、[**削除**] を選択します。

LinuxからHP Release Controlを削除するには：

1 Linuxシステムに**root**としてログインします。

2 **/opt/HP/rc/stop.sh**コマンドを実行して、Release Controlデーモンを停止します。

3 次のコマンドを実行して、HP Release Controlを削除します。

```
rpm -e release-control
```

第 2 章

HP Release Controlのアップグレード

この章では、**Windowsで**、HP Release Control **4.12以降から**バージョン**9.20**にアップグレードする方法について説明します。

4.12 より古いバージョンから 9.20 にアップグレードするには：

- バージョン4.12へのアップグレードは、『***HP Release Control 4.12 Deployment Guide***』に記載の手順に従ってください。
- バージョン 4.12から 9.20へのアップグレード は、この章に記載の手順に従ってください。

アップグレードプロセスでは、次のステージを実行します。

- 「ステージ1：前提条件」（78ページ）
- 「ステージ2：HP Release Controlのインストールとアップグレード」（80ページ）
- 「ステージ3：サービスデスクアダプターを9.20にアップグレード」（81ページ）
- 「ステージ4：アップグレード後のガイドライン」（83ページ）

ステージ1：前提条件

1 **HP Release ControlとHP Universal CMDB 7.0を使用している場合**:次の手順を実行してください。

➤ HP Universal CMDBをスタンドアローンモードに設定します。

➤ HP Release Control 4.1xを使用している場合:**uCmdbConfigurer**ユーティリティを使用します。詳細については、HP Release Control 4.1xのドキュメントを参照してください。

➤ HP Release Control 5.0を使用している場合:[**モジュール**]>[**管理者**]>[**構成**]タブ>[**統合**]>[**HP Universal CMDB**]を選択し、[**HP Universal CMDBバージョン**]ボックスの[**HP Universal CMDBがありません(スタンドアローン)**]を選択します。

または

➤ HP Universal CMDBを新しいバージョンにアップグレードします。

2 変更要求キューが空であることを確認します。

a 該当する手順を実行してください。

➤ **4.1x以降のバージョン：<旧バージョンのHP Release Controlインストールディレクトリ>\conf**ディレクトリで、サービスデスクアダプター構成ファイル(**<service desk>-adapter.settings**)を開きます。たとえば、HP Service Managerを使用している場合のファイル名は、**servicemanager-ws-adapter.settings**です。

➤ **5.00以降のバージョン**:[**モジュール**]>[**管理者**]>[**構成**]タブ>[**統合**]>[**サービス デスク アダプター**]をクリックし、目的のサービスデスクアダプターノードを選択します。構成ファイルが右側のウィンドウに表示されます。構成ファイルを編集する方法は、「HP Release Controlの構成設定」(73ページ)を参照してください。

b アダプター構成ファイルで、アダプターを初期モードに切り替えます。

➤ 次の行に移動します。

```
<!--initial-load-state><前回ポーリング日時></initial-load-state-->
```

➤ コメントを解除し、日時を次のように変更します。

```
<initial-load-state>[前回ポーリング日時]</initial-load-state>
```

[**前回ポーリング日時**] には、HP Release Controlが最後にサービスデスクのポーリングを実行した日時よりも前の日時を指定します。デフォルトでは、ポーリングは30秒に1回実行されます。

前回のポーリング日時は、現在日時よりも数時間前に設定することをお勧めします。たとえば、今日が2010年1月20日の場合、前回ポーリング日時を次のように設定します。

```
<initial-load-state>1/20/2010 00:00:00 PST</initial-load-state>
```

c HP Release Controlを再起動し、キュー内にある変更要求をすべて処理します。

d **<旧バージョンのHP Release Controlインストールディレクトリ>\bin**にあるQueue Managerユーティリティを実行して、キューが空であることを確認します。

Queue Managerユーティリティの操作方法については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』を参照してください。

3 HP Release Control 5.00以降を使用している場合：アダプターの設定およびスクリプトファイル (***.js**) をダウンロードして保存します。

4 HP Release Controlサービスを停止します。

5 Webサーバー (ApacheまたはIIS) でHP Release Controlを使用している場合、Webサーバー構成ユーティリティを実行してWebサーバー構成ファイルを削除します。次のコマンドを実行します。

```
<旧バージョンのHP Release Controlインストールディレクト>\bin\WebServerConfigurer.bat
remove-config
```

注意: 新しいバージョンのHP Release Controlをインストールした後、引き続きWebサーバーを使用する場合は、新しい環境でWebサーバー構成ユーティリティを実行して構成を行います。詳細については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のユーティリティの項を参照してください。

---

6 アップグレードでエラーが発生してもデータが破損しないように、データベースをバックアップします。

ステージ2：HP Release Controlのインストールとアップグレード

1 HP Release Controlバージョン9.20をインストールします (「HP Release Controlのインストール」（19ページ）を参照してください)。

インストール作業を行う前に、インストール前の確認を行います (「インストールの前に」（13ページ）を参照してください)。

2 HP Release Control構成でパスワード (データベースパスワードなど) を暗号化している場合は、**<旧バージョンのHP Release Controlインストールディレクトリ>\security**の内容を、**<HP Release Control 9.20インストールディレクトリ>\security**にコピー (および上書き) します。

3 アップグレード後のHP Release Controlで使用するデータベースを構成します。この作業には、データベース構成ウィザード (「データベースまたはユーザースキーマの設定」（21ページ）を参照してください) を使用します。

4 **<HP Release Control 9.20インストールディレクトリ>\bin**ディレクトリの**Upgrade.bat**を実行すると、アップグレードが始まります。プロンプトが表示されたら、旧バージョンのHP Release Controlインスト ールディレクトリ (**C:\HP\RC500**など) の完全パスを入力します。

5 旧バージョンの**ccmlog4j.properties**ファイルでログレベルを変更している場合は、新しい**ccmlog4j.properties**ファイルと**cmdblog4j.properties**ファイルでも同じ変更を行ってください。

6 HP Release Controlサーバーを起動します。

ステージ3：サービスデスクアダプターを9.20にアップグレード

注意：次に示す手順は、旧バージョンのHP Release Controlで使用していたサービスデスクアダプターごとに実行する必要があります。

---

1 **<HP Release Control 9.20 インストールディレクトリ>\bin**ディレクトリの **SdiConfigurer.bat** を実行します。アダプター設定を入力しますが、旧バージョンの HP Release Control **で使用していたアダプターの設定ファイルと同じ値を設定してください。**

- **HP Release Control 4.12：**ファイルは、**<旧バージョンのHP Release Control インストールディレクトリ>\conf** ディレクトリに格納されています。
- **HP Release Control 5.00 以降：**「ステージ1：前提条件」の 手順3 で保存した設定ファイルを使用します。

注意：アダプター名は、アップグレード前の旧バージョンと同じ名前を使用してください。アダプター名は、**<service-desk-application>** タグで参照できます。次に例を示します。

<service-desk-application>PPM</service-desk-application>

アダプター名は**PPM**です。

---

2 アダプターを構成セットに追加します。詳細については、「ステージ3：構成変更の適用」（40ページ）を参照してください。

3 構成セットを保存します。ただし、まだアクティブ化しないでください。詳細については、「ドラフトの構成セットの保存」（73ページ）を参照してください。

4 旧バージョンのHP Release Controlで使用していたアダプターの設定およびスクリプトファイル (***.js**) を変更している場合は、これをアップロードします。

- **HP Release Control 4.1x**: このファイルは、**<旧バージョンのHP Release Control インストールディレクトリ>\conf\<アダプター名>.ext**ディレクトリに格納されています。
- **HP Release Control 5.00 以降**:「ステージ 1：前提条件」の手順3 で保存した設定ファイルを使用します。

5 アダプター構成ファイルで、古いチケットを取得する設定を行います。アップグレードを実行した時間帯をカバーできるように設定する必要があります。

- **HP Service Managerとデータベースアダプター**：次のプロパティを探します。

```
startFrom=
```

- **その他のアダプター**：次の行のコメントを解除し、日時を変更します。

```
<initial-load-state>[前回ポーリング日時]</initial-load-state>
```

[**前回ポーリング日時**] には、アップグレードの開始時刻よりも前の日時を指定します。デフォルトでは、ポーリングは30秒に1回実行されます。

次の例では、今日が2010年1月20日であり、アップグレードを2:00 AMに開始したので、前回ポーリング日時を深夜0:00に設定しています。

```
<initial-load-state>1/20/2010 00:00:00 PST</initial-load-state>
```

6 サービスデスクとしてRemedyを使用し、.jarファイルを **<旧バージョンのHP Release Control インストールディレクトリ>\tomcat\webapps\ccm\WEB-INF\lib**ディレクトリに手動で追加した場合、追加したファイルを <**HP Release Control 9.20 インストールディレクトリ>\apps\ccm\WEB-INF\os_lib** にコピーします。

7 HP Release Control 4.1xからアップグレードする場合は、[アクション アイテム] フィルター見出しをレポートテンプレートから削除します。

a [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**モジュール**] > [**分析**] > [**レポート**] > [**変更レポート - HTML と PDF テンプレート)**] をクリックします。

b [**ダウンロード : grid.changes-report.jrxml**] をクリックし、開いた [参照] ダイアログボックスを使用してローカルディレクトリにファイルをエクスポートします。ローカルディレクトリ上でファイルを開きます。

c 次の文字列が2箇所にあるので、検索します。

```
<textFieldExpression class="java.lang.String"><![CDATA["Change Requests:
<style isBold=\"true\">" + $P{CHANGE_FILTER} + "</style>  Action items:<style
isBold=\"true\">" + $P{COLLABORATION_FILTER} + "</style>"]]></
textFieldExpression>
```

d いずれも、次の文字列で置換します。

```
<textFieldExpression class="java.lang.String"><![CDATA["Filter:<style
isBold=\"true\">" + $P{CHANGE_FILTER} + "</style>"]]></textFieldExpression>
```

e ファイルを保存します。

f [**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**モジュール**] > [**分析**] > [**レポート**] > [**変更レポート - HTML と PDF テンプレート)**] をクリックします。右ウィンドウの [**ファイルのアップロード**] をクリックして、変更したファイルをローカルディレクトリからHP Release Controlシステムにインポートします。

8 左ウィンドウで、[**現在の構成セットのアクティベーション**] ボタンをクリックします。選択したドラフトがアクティブになり、HP Release Controlに新しい構成プロパティが適用されます。

ステージ4 : アップグレード後のガイドライン

1 旧バージョンの製品をアンインストールします。

2 旧バージョンの**change-flow.js**スクリプトを変更していない場合は、次の手順に従って、新しい**change-flow.js**スクリプトを更新することをお勧めします。

a HP Release Controlで、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**変更プロセス**] > [**変更フロー スクリプト**] ノードをクリックします。そのファイルの内容が右側のウィンドウに表示されます。すべての内容を手動で削除します。

b **<HP Release Control 9.20 インストールディレクトリ >\examples\scripts** ディレクトリに移動し、テキスト編集ツールで **change-flow.js** ファイルを開きます。

c **change-flow.js** の内容をコピーし、[**変更フロー スクリプト**] ノードの右側ウィンドウに貼り付けます。

d 構成変更を保存し、アクティブにします (「HP Release Controlの構成設定」(73ページ) を参照してください)。

3 **HP Release Control 4.1x からのアップロード** : [**計算されたリスク**] 条件を定義したフィルターが存在する場合、フィルター自体は動作しますが、デフォルトのフィルター設定を使用して [**計算されたリスク**] 条件を編集することはできなくなります。フィルターを編集するには :

a HP Release Controlで、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**構成**] タブ > [**統合**] > [**フィールド**] をクリックします。

b [**利用できるフィールド**] ウィンドウで、[**分析データ**] > [**calculated-risk**] フィールドを選択します。

c [**フィールドの属性**] ウィンドウで、[**フィルターのレイアウト**] タブで [**フィルターに表示**] オプションを選択します。

d 構成変更を保存し、アクティブにします (「HP Release Controlの構成設定」(73ページ) を参照してください)。

e HP Release Controlにログインし、フィルターを編集します。

注 :

➤ フィルター定義を変更し、[**計算されたリスク**] 条件ではなく、新しい [**Risk severity(リスクの重要度)**] 条件を使用することをお勧めします。

➤ また、フィルターの編集が完了したら、[フィールド] ウィンドウに戻り、[**calculated-risk**] フィールドの [フィルターに表示] オプションをオフにしておくことをお勧めします。

---

4. HP Release Controlの新しいバージョンをインストールした後、引き続きWebサーバーを使用する場合は、新しい環境でWebサーバー構成ユーティリティを実行し、構成を行う必要があります。Webサーバーを構成する方法については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』のユーティリティの項を参照してください。

5. アップグレード前にID管理モードを使用し、アップグレード後も引き続き使用する場合は、ID管理モード向けにHP Release Controlを再構成する必要があります。詳細については、『*HP Release Control ユーザーガイド*』の「ID管理モードの使用」を参照してください。

6. アップグレード前に期間を定義していた場合は、[**モジュール**] > [**管理者**] > [**期間**] タブを選択し、[**設定の保存**] ボタンをクリックします。

第 3 章

FAQ

この章では、HP Release Control のインストールおよび構成上の問題に関する FAQ 情報を提供し、その解決策を示します。

この章では、次の項目を説明します。

- 「スタンドアローンモード用の cmdb-mock.js スクリプトの構成方法」（87 ページ）
- 「2 つの変更アダプターを使用して変更チケットをプルする方法と、異なる手段でリスク値を計算する方法」（92 ページ）
- 「SSL を使用する場合の HP Release Control と Service Manager の統合のセットアップ方法」（94 ページ）
- 「HP Release Control のユーザーを LDAP グループマッピングなしでセットアップする方法」（96 ページ）

スタンドアローンモード用の cmdb-mock.js スクリプトの構成方法

問題

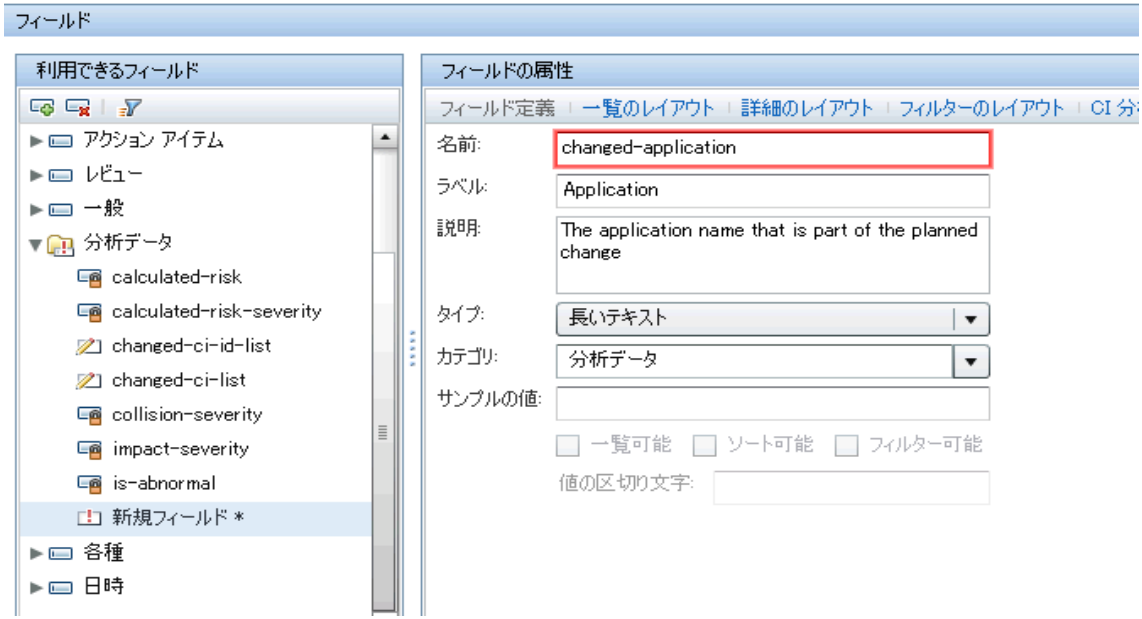
HP Release Control 9.13 をスタンドアローンモードで Service Manager 7.11 とともに使用する場合、変更要求およびタスクは、Connect-It シナリオとともに XML ファイルで HP Release Control に送られます。変更要求の XML 属性では、アプリケーション名をフィールドの 1 つとして受け取ります。その情報を使用し、アプリケーションのインパクトを表示するには、cmdb-mock.js スクリプトをどのように変更すればよいでしょうか。

解決方法

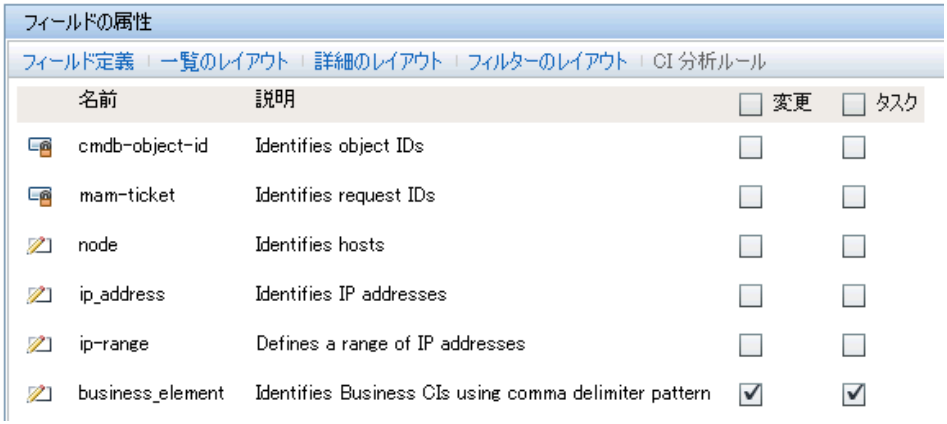
cmdb-mock.js スクリプトを以下のように変更します。

1 [**統合**] > [**フィールド**] > [**分析データ**] を選択し、新しいフィールド **changed-application** を追加します。

   a [**名前**] テキストボックスに「**changed-application**」と入力し、それにタイプとカテゴリを割り当てます。



b [CI 分析ルール] タブで、[**business_element**] チェックボックスをオンにします。また、別の CI タイプに一致する別のルールを選択することもできます。



2 (オプション) 必要であれば、[**変更プロセス**] > [**インパクト分析ルール**] で、独自の CI タイプに一致する**一致パターン**を持つ CI 分析ルールを新規に追加します。アプリケーションフィールドについて、新規に作成したルールにマークを付けるには、手順 1 を繰り返す必要があります。

インパクト分析ルール

CI 分析ルール

名前	説明
cmdb-object-id	Identifies object IDs
mam-ticket	Identifies request IDs
node	Identifies hosts
ip_address	Identifies IP addresses
ip-range	Defines a range of IP addresses
business_element	Identifies Business CIs using comma
my_own_type	Identifies my own application types

CI 分析ルール定義

名前: my_own_type

説明: Identifies my own application types

Analyzer クラス: ルール名を CI クラス名として使用する

パターン

一致パターン	CI バックリファレンス
{[¥w-¥s¥{¥}¥[¥]]}+	0

フィールド

利用できるフィールド

- アクション アイテム
- レビュー
- 一般
- 分析データ
  - calculated-risk
  - calculated-risk-severity
  - changed-ci-id-list
  - changed-ci-list
  - collision-severity
  - impact-severity
  - is-abnormal
  - 新規フィールド *
- 各種
- 日時

フィールドの属性

フィールド定義 | 一覧のレイアウト | 詳細のレイアウト | フィルターのレイアウト | CI 分析ルール

名前	説明	変更	タスク
cmdb-object-id	Identifies object IDs	☐	☐
mam-ticket	Identifies request IDs	☐	☐
node	Identifies hosts	☐	☐
ip_address	Identifies IP addresses	☐	☐
ip-range	Defines a range of IP addresses	☐	☐
business_element	Identifies Business CIs using comma delimiter pattern	☑	☑
my_own_type	Identifies my own application types	☑	☑

3 **<xml adapter> -> convertChange.js** を選択します。**ApplicationName** がXMLファイルのフィールド名です。**changed-application** フィールドを、以下のようにしてXMLフィールドにマッピングします。

```
function convert(demoRFC, genericRFC) {
        .............
        genericRFC.setField("changed-application", demoRFC.get("ApplicationName"));
        .............
}
```

同じように **<xml adapter> -> convertTask.js** を修正します。

これで、XMLの **ApplicationName** フィールドがHP Release Controlの **changed-application** フィールドに接続され、HP Release Controlは、事前定義されたCI分析ルールに従って、**ApplicationName** 属性のCIタイプを検出できます。次のステップは、インパクトの重大度をCIタイプに基づいて定義する処理です。

4 **cmdb-mock.js** スクリプトを変更して、アプリケーションのインパクトを設定します。

a Impact構成セクションで、アプリケーションタイプを独自のタイプに変更します。

b getSeverity() 関数を修正して、インパクトの重大度をマッピングします。

```
var APP_TYPE1 = "business_element";
var APP_TYPE2 = " my_own_type ";
var APP_TYPE3 = "your_own_type3";
.............
var APPLICATION_TYPES = new Array(APP_TYPE1, APP_TYPE2, APP_TYPE3,
............);

function getSeverity(ciId, type){
        if (type.toLowerCase() == APP_TYPE1.toLowerCase()){
                // You can add more conditions here for impact severity setting
                return SEVERITY_CRITICAL;
        }
        else if(type.toLowerCase() == APP_TYPE2.toLowerCase()){
                // You can add more conditions here for impact severity setting
                return SEVERITY_HIGH;
        }
        else if(type.toLowerCase() == APP_TYPE3.toLowerCase()){
                // You can add more conditions here for impact severity setting
                return SEVERITY_MEDIUM;
        }
        return SeverityEnum.getUnknown();
}
```

5 ここで、定義したルールに基づいて任意のCIタイプに一致する値を持つ **ApplicationName** 属性も含め、変更のXMLデータを準備します。次に、HP Release ControlはCIタイプを検出し、上記の条件に基づいて、インパクトの重大度を計算します。

2つの変更アダプターを使用して変更チケットをプルする方法と、異なる手段でリスク値を計算する方法

問題

Service Managerとメインフレームの2つの変更について、2つの変更アダプターを使用して変更チケットをどのようにプルできますか (たとえば、DBアダプター)。

これらの2種類の変更について、異なる方法 (uCMDB リスク / 指定リスク計算) をどのように使用してリスク値を計算できますか。

解決方法

現在のところ、HP Release Control には前述の構成のための UI コンポーネントがありませんが、このようなタスクは変更スクリプトを更新して実行できます。

例として、以下の手順を参照してください。

1. 2つのサービスデスクアダプター (**sd1** および **sd2**) をインポートします。
2. HP Release Control で、[**管理者**] > [**構成**] > [**統合**] > [**フィールド**] を選択し、**service-desk** というカスタマイズフィールドを追加します。
3. [**管理者**] > [**構成**] > [**統合**] > [**sd1**] > [**convertChange.js**] を選択し、function convert にコード行を追加します。

```
function convert(sm_rfc, generic_rfc) {
......
generic_rfc.setField("service-desk", "sd1")
......
                        }
```

4. [**sd2**] > [**convertChange.js**] も、1つ前の手順と同じように設定します。
5. [**管理者**] > [**構成**] > [**変更プロセス**] > [**変更フロー スクリプト**] を選択し、次のコード行を関数 function overrideRisk に追加します。

```
function overrideRisk(prevChange, newChange, analysis, result) {
//-----Example:maximize risk when change tickets from sd1 adapter
    if (newChange.getField("service-desk")== "sd1"){
                        result.risk= 100;
            }
}
```

6. HP Release Control サービスを再起動します。これで、**sd1** からの変更がリスク計算を取得するようになります。

変更フロースクリプトから起動可能な他の関数については、『*HP Release Control API Reference*』の「RiskAnalysis」、「RawRiskFactorCalculationResult」、および「OverrideRulesResult classes」を参照してください。

SSLを使用する場合のHP Release ControlとService Managerの統合のセットアップ方法

問題

SSLを使用する場合、HP Release ControlとService Managerの統合をどのようにセットアップすればよいでしょうか。

解決方法

Tomcatを使ったSSL構成の例として、以下の手順を参照してください。

1 キーストアファイルを作成します(証明書ファイルがある場合、この手順をスキップできます)。

   a Windowsコマンド プロンプトを開きます。次のコマンドを入力して、ディレクトリをJavaプラットフォームのbinフォルダに変更します。

```
cd %JAVA_HOME%/bin
```

   b 次のコマンドを入力して、HP Release Controlのプライベートキーとキーストアを作成します。

```
keytool -genkey -alias <rctracer> -keypass <rcadmin> -keystore <rctracer.bin>
-storepass <rcadmin>
```

   要件に基づいて山かっこで囲まれているパラメーターを置換します。keypass と storepassのパスワードは同じである必要があります。**.bin**ファイルは実際のキーストアファイルです。

   c keytool によって名と姓の入力を要求されたら、要求に応じて個人情報を入力します。

   d keytoolによって組織単位、組織、市町村、都道府県、2文字から成る国コードの入力を要求されたら、会社の識別情報を入力します。

   e 入力した情報を確認し、正しければ「**はい**」と入力します。

f ディレクトリをJavaプラットフォームのbinフォルダーに変更し、**rctracer.bin**ファイルが作成されていることを確認します。

2 キーストアファイルを使用するようにTomcatを構成します。

a **rctracer.bin** をTomcatのwebappsフォルダーにコピーします。

b **servers/server-0/conf**ディレクトリに移動し、**server.xml**を開きます。

c Connector port="8443"要素を見つけ、コメントを解除します。clientAuthの下にコード行を2行追加します。

```
<Connector port="8443"
maxThreads="150" minSpareThreads="25" maxSpareThreads="75"
enableLookups="true" disableUploadTimeout="true"
acceptCount="100" debug="0" scheme="https" secure="true"
clientAuth="false" sslProtocol="TLS"
keystoreFile="../webapps/rctracer.bin"
keystorePass="rcadmin" />
```

d ファイルを保存して閉じます。

注意：複数のノードがある場合、各ノードに対してserver.xmlファイルを変更する必要があります。

---

3 SSLと連携するようにWebサーバーアプリケーションを構成します。

a Web サーバーアプリケーションの **apps/ccm/WEB-INF** ディレクトリに移動し、**web.xml**を開きます。</web-app>の前に次のXMLフラグメントを追加します。

```
<security-constraint>
<web-resource-collection>
<web-resource-name>securedapp</web-resource-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
</web-resource-collection>
<user-data-constraint>
<transport-guarantee>CONFIDENTIAL</transport-guarantee>
</user-data-constraint>
</security-constraint>
```

b ファイルを保存して閉じます。

HP Release Controlのユーザーを LDAPグループマッピングなしでセットアップする方法

問題

HP Release Control で LDAP グループマッピングなしでユーザーをセットアップするにはどうすればよいですか。

解決方法

組織がアプリケーションにLDAPグループを使用しないか、LDAP経由で認証できないことが許容できない場合でも、HP Release Control 管理者はユーザーをセットアップすることができます。

例として、以下の手順を参照してください。

1 HP Release Controlデータベースに管理者ユーザーをインポートします。

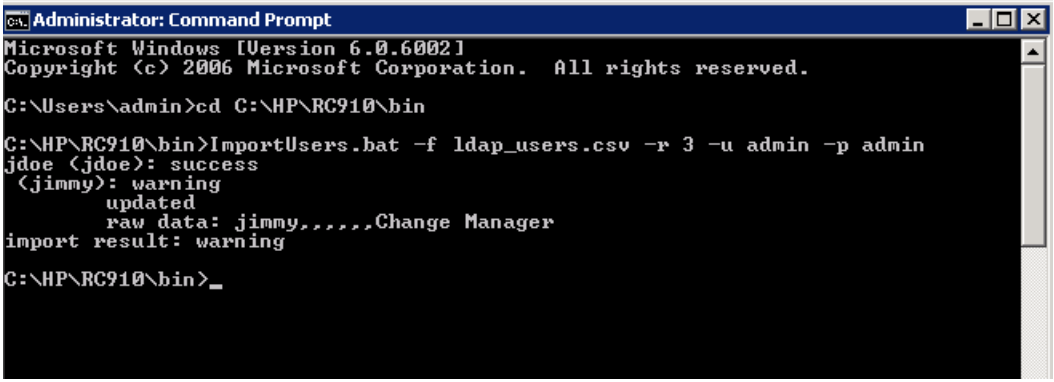
a 次の形式のテキストファイルを用意し、**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin**の下に**ldap_users.csv** という名前で保存します。

```
USERNAME,PASSWORD,FIRST_NAME,LAST_NAME,EMAIL,BUSINESS_ID,ROLE
jdoe,,John,Doe,jon.doe@hp.com,jdoe,System Administrator
jimmy,,,,,,Change Manager
```

- デフォルト以外の役割を割り当てるユーザーのリストをこのファイルに記述します。ユーザーにシステム管理者の役割を割り当てる必要があります。ここで割り当てた管理者ユーザーがHP Release Control管理者となります。
- ファイルに記述されたユーザーは、LDAPサーバーへのアクセス権を持つ必要があります。そうでないと、LDAPを有効にしたときに承認の問題が発生します。

➤ 一部のフィールドは空白にしておくこともできますが、"USERNAME"フィールドは指定する必要があります。これは、手順2-cでldap.propertiesのusersUniqueIDAttributeプロパティに指定するLDAP属性を表します。

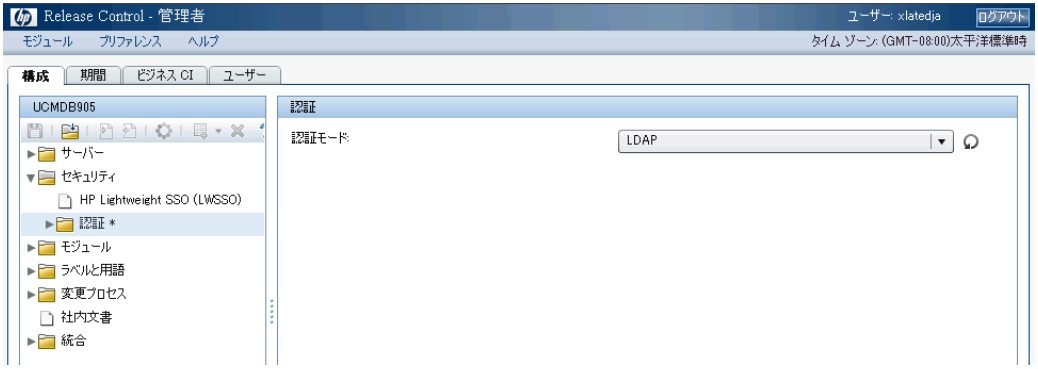
b Windowsコマンドプロンプトを開きます。ディレクトリを**<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin**に変更し、ImportUsers.batコマンドをデフォルトユーザー adminで実行します。



スクリーンショットでは、jimmyというユーザーがHP Release Controlデータベースにすでに存在するため、警告が表示されています。このユーザープロファイルは更新されます。

2 HP Release Controlで、グループマッピングなしで使用するようにLDAPを構成します。

a 管理者でHP Release Controlにログインし、認証モードを**LDAP**に設定します。



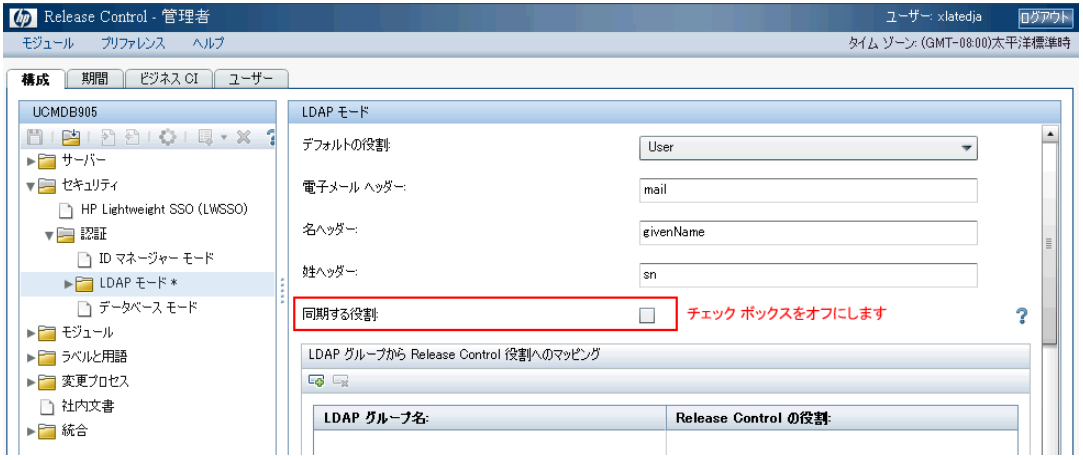
b LDAPモードの詳細を構成し、次のことに注意します。

- デフォルトの役割となる役割 (例、**ユーザー**) を選択します。LDAPモードでユーザーの役割を更新し、管理モジュールへのアクセス権を割り当てる方法については、次の手順を参照してください。
- 役割は初期状態のHP Release Controlシステムであらかじめ定義されています。実際の要件を満たすには、ManageRoles.batコマンドを実行して、独自の役割を作成します。例：

```
<HP Release Control インストールディレクトリ>\bin\ManageRoles.bat -c -r NewRole -a
<permission name1> <permission name 2> .....
```

詳細については、『HP Release Control ユーザーガイド』> 「付録」> 「ユーティリティ」> 「役割マネージャー」のセクションを参照してください。

- [**電子メール ヘッダー**]、[**名ヘッダー**]、[**姓ヘッダー**] は、対応するLDAP属性名を表します。
- [同期する役割] チェックボックスはオンにしないでください。ユーザーが初めてログインしたときに、HP Release Controlはデフォルトの役割を使用せずに、ユーザーの役割をデータベースから取得します。

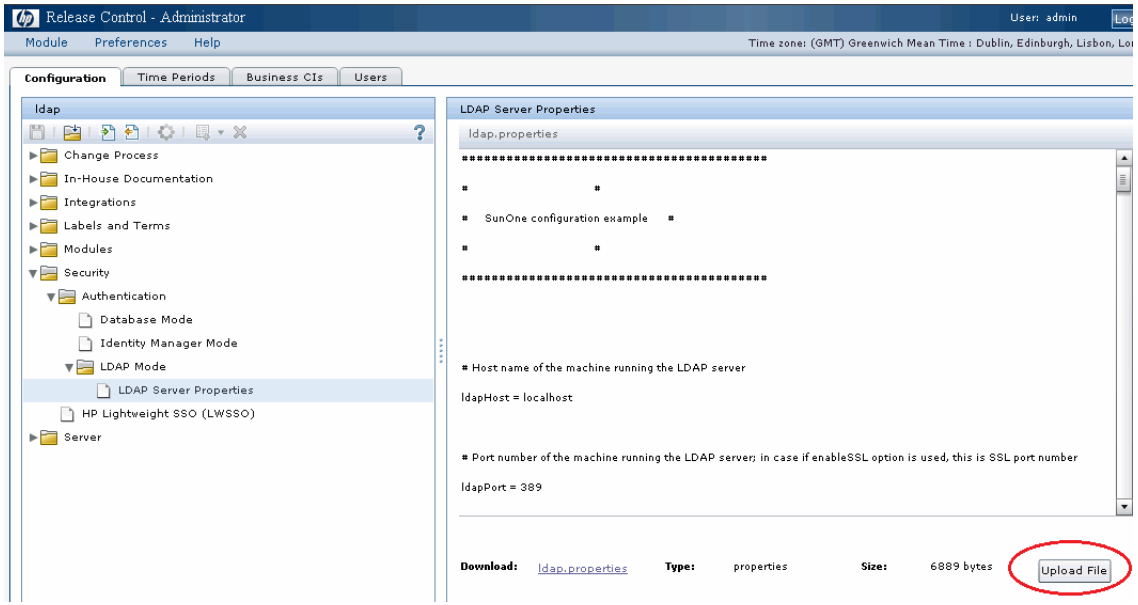


c LDAPサーバープロパティの構成

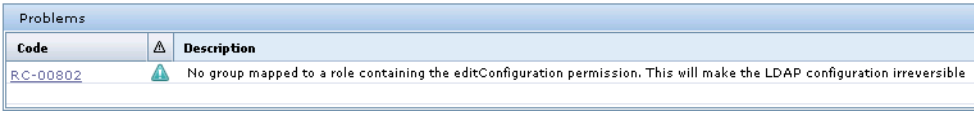
i **<HP Release Control インストールディレクトリ>/examples/ldap-examples** ディレクトリを参照し、LDAP サーバータイプに応じて適切なプロパティテンプレートファイルを 1 つ選択します。たとえば、openDS LDAP サーバーの場合は **ldap.properties.SO** を選択します。

ii 選択したテンプレートファイルを開き、グループ関連のプロパティ以外のプロパティを更新します。

iii 更新が完了したら、ファイルを保存して名前を **ldap.properties** に変更します。このファイルを RC にアップロードします。



iv 構成セットを新しい名前で保存します。次の警告メッセージが表示される場合があります。



この警告は、管理者権限を持つ役割がマッピングされた LDAP グループが存在しないために生じています。この警告は無視してください。

v 構成セットのアクティベーション。

vi HP Release Controlからログアウトします。

3 HP Release ControlにLDAPユーザーでログインします。

a HP Release Controlに LDAPユーザーでログインします。HP Release Controlはパスワード承認のためにLDAPサーバーに接続し、その後でこのユーザーがデータベースにすでに存在するかどうかを確認します。存在する場合、HP Release Controlはデータベースにある役割をこのユーザーに割り当てます。存在しない場合、HP Release Controlはデフォルトの役割 (**ユーザー**) を割り当て、新しいユーザーがRCデータベースに作成されます。

b 新しいLDAPユーザーがデフォルトの役割でログインした後でも、ImportUsers.batコマンドを実行することによりそのユーザーの役割を更新することができます(LDAPモードでの新しいHP Release Control管理者であるjdoeを使用します)。

索引

A

Aperture VISTA
　　統合の構成 65

B

BMC Remedy Action Request System、統合の構成 51

D

database.configuring 21

G

IT Governance Center、統合の構成 48

H

HP Release Control へのログイン 26
HP Network Automation、統合の構成 63
HP Server Automation、統合の構成 63
HP ServiceCenter、ServiceCenter を参照
HP Service Desk、統合の構成 54
HP Service Manager、Service Manager を参照
HP Universal CMDB、構成 29
HP ソフトウェア Web サイト 10
HP ソフトウェアサポート Web サイト 9

N

Network Automation、統合の構成 63

P

Project and Portfolio Management、統合の構成 48

R

Remedy、統合の構成 51

S

Server Automation、統合の構成 63
ServiceCenter
　　統合の構成 42
Service Manager
　　統合の構成 35
SMRC1.2_Demo.unl、手動での実行 41

U

Universal CMDB、構成 29

W

Web サーバーの構成 68
Web サーバーの構成 ユーティリティ 68

あ

アップグレード手順 77

い

インストール 19
　　前 13
インストールの前に 13

お

オンラインリソース 9

く

クライアント要件 17

こ

[構成] タブ 73

さ

サーバーシステム要件 16
サーバーの構成 28
サービスデスク
　構成 34
　サポート対象 13
サービスデスクとしてのXMLファイル、構成 61
サービスデスクとしてのデータベース、構成 57

し

システムアーキテクチャ 19
システム要件
　クライアント 17
　サーバー 16

て

データフロー 18
データベースの構成 21
デプロイメントオプション、詳細 17
デプロイメントプロセス 12

と

ドラフトの構成セットを保存 73

ゆ

ユーザースキーマ、構成 21
ユーティリティ
　Webサーバーの構成 68